

「男女共同参画」に関する市民アンケート調査結果

第3次網走市男女共同参画プラン策定の基礎資料とするため、網走市における男女共同参画に関する市民意識についてアンケート調査を実施しました。結果は次のとおりです。

1. 調査の内容

(1) 調査対象

市内に居住する満18歳以上の男女1,000人（男性500人、女性500人）

(2) 調査方法

無作為抽出した男女1,000人に郵送によるアンケート調査

(3) 調査期間

令和3年7月9日から令和3年7月31日

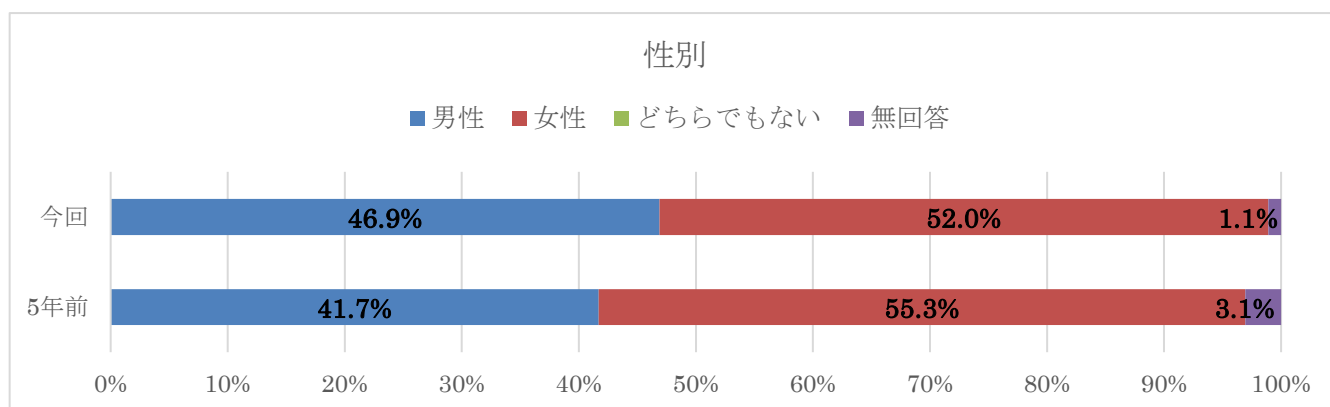
(4) 回答数 273人（男性128人、女性142人、どちらでもない0人、無回答3人） 回答率27.3%

【参考】 平成29年7月1日～28日実施 回答数295人（回答率29.5%）

2. 基本事項について

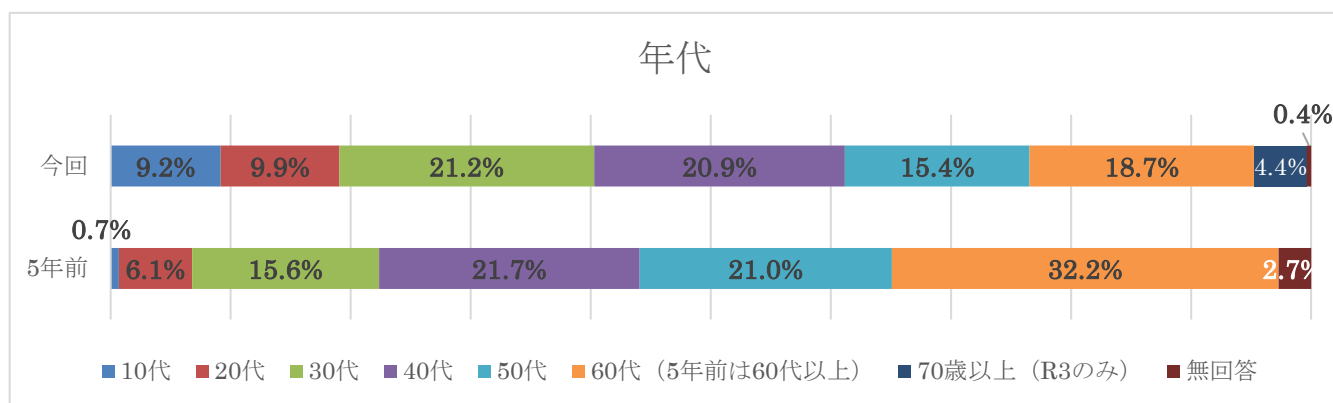
(1) 性別

5年前に比べると男性の回答比率が増えて男女比がほぼ均等になりました。また、今回の調査から性別の選択肢に「（男性・女性）どちらでもない」を設けましたが、選択された方はいませんでした。



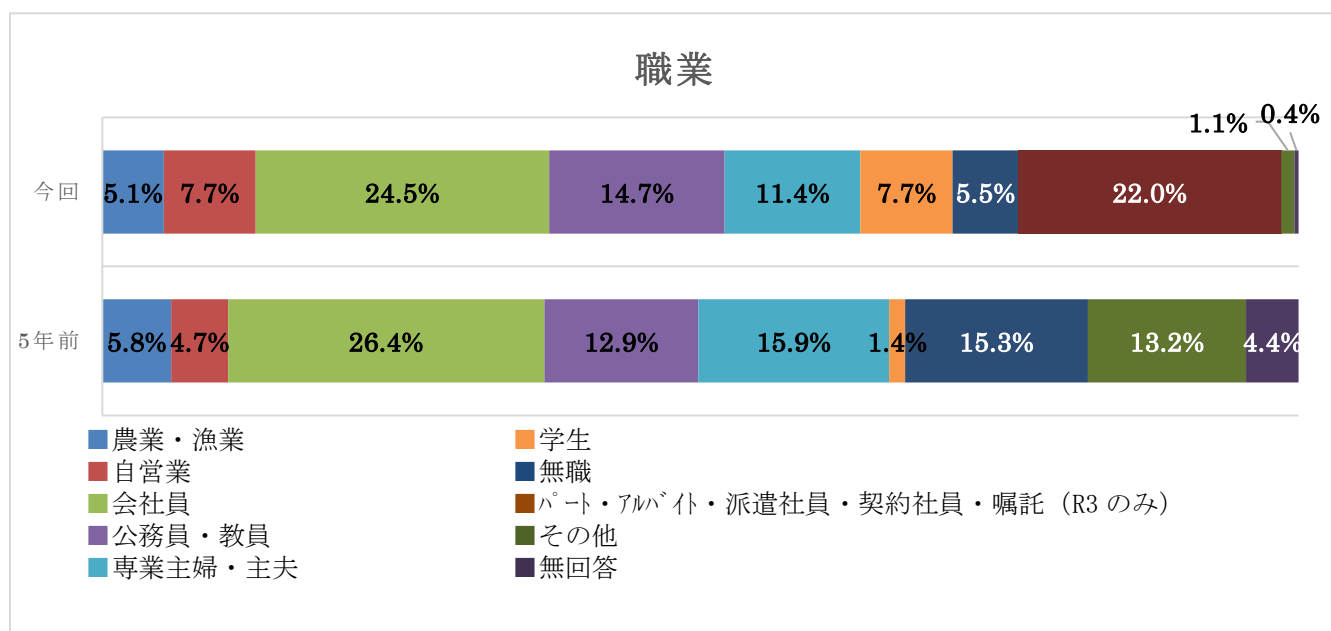
(2) 年齢（令和3年7月1日時点）

今回10代からは25名の回答があり、回答者全体の9.2%を占めました。また、5年前の10～30代の回答割合は、合わせて22.4%でしたが、今回は40.4%と約2倍になりました。



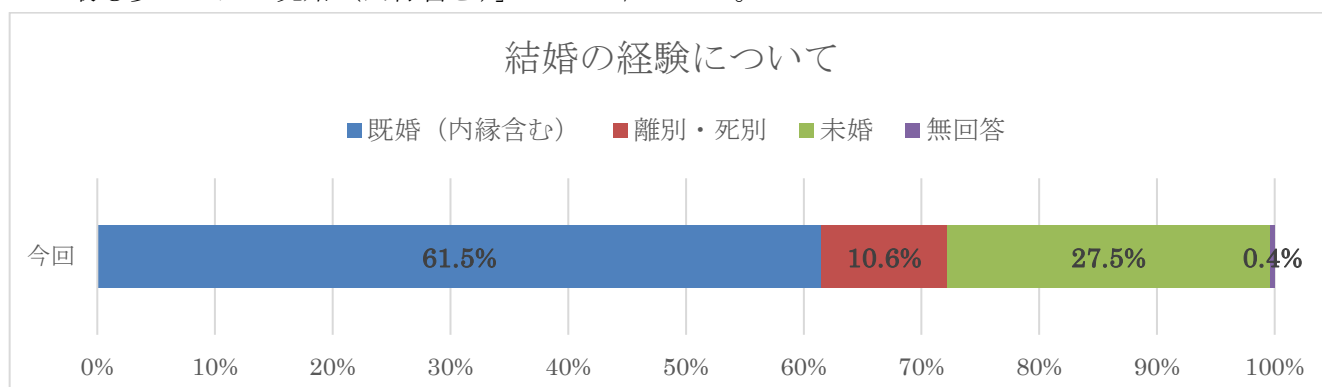
(3) 職業

5年前と比較して「学生」の割合が増加しました。最も多いのが「会社員」の24.5%、次に、今回新設した「パート・アルバイト・派遣社員・契約社員・嘱託」が22.0%でした。



(4) - ① 結婚の経験について (内縁を含む)

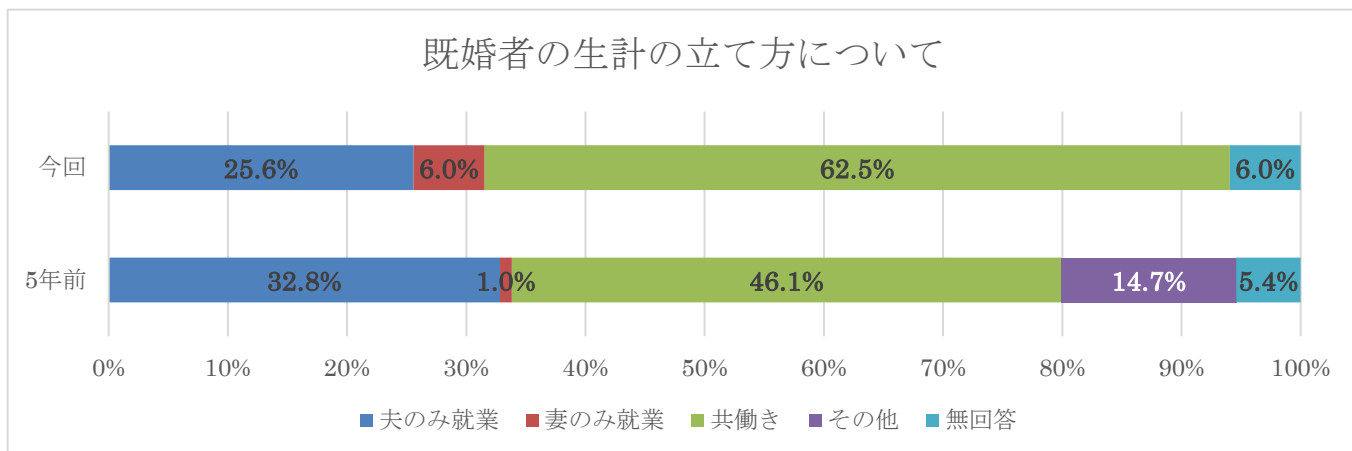
最も多いのは「既婚 (内縁含む)」の61.5%でした。



(4) - ② 既婚者の生計の立て方について

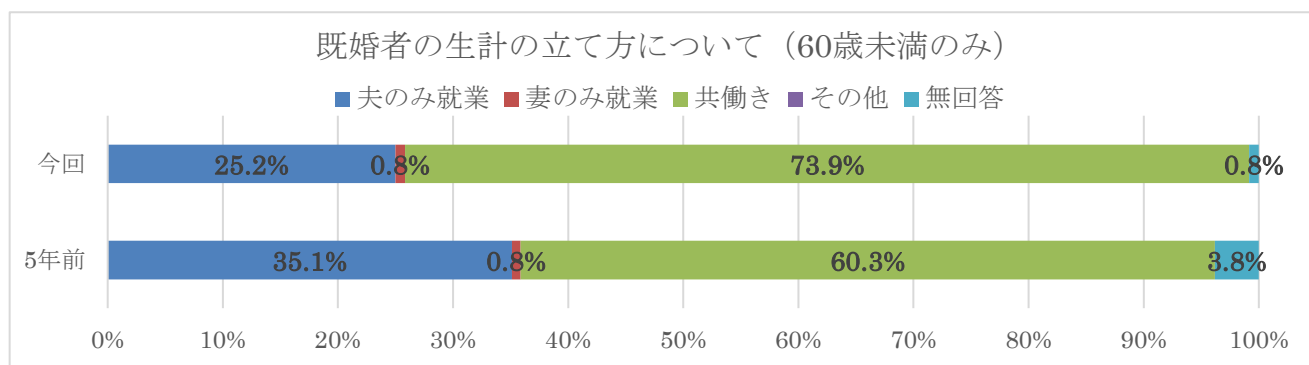
「共働き」と「妻のみ就業」の割合が大きく増加しました。

なお、選択肢の変更に伴い、「その他（グラフ色：紫）」がなくなりました。

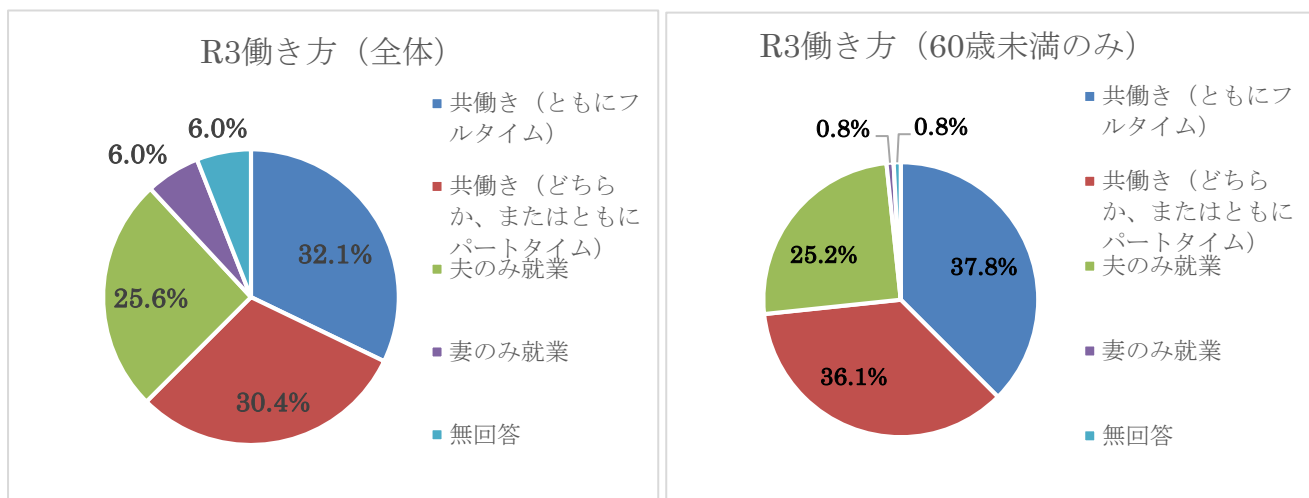


60歳未満（現役世代）のみを集計した下の表では、5年前に比べて「共働き」が増加し、「夫のみ就業」が減少しています。

また、全体の場合（上の表）との比較では、「妻のみ就業」の割合が小さくなっています。

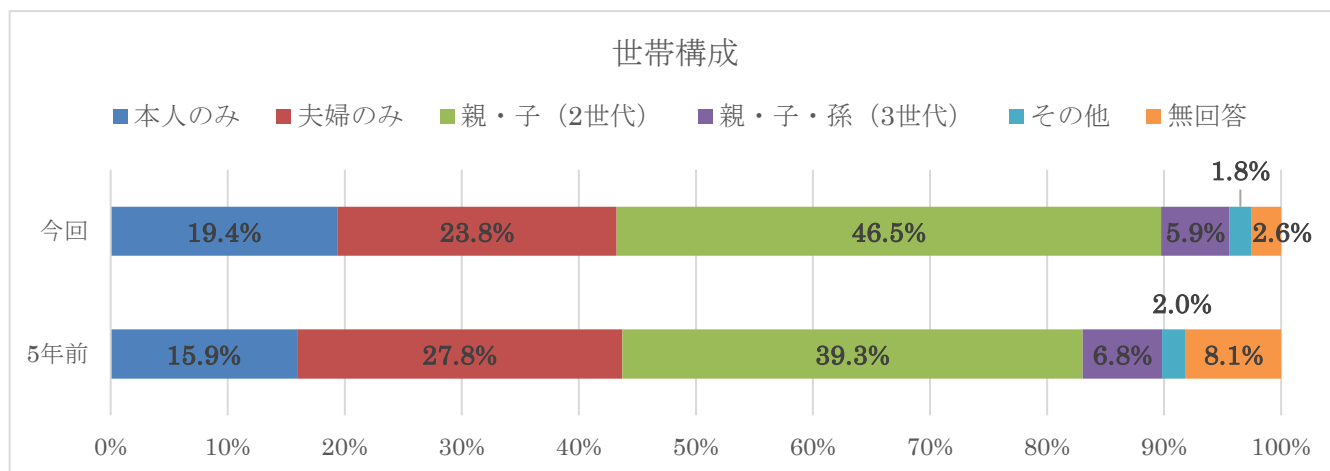


【参考】R3 各世帯内での夫婦の働き方構成比



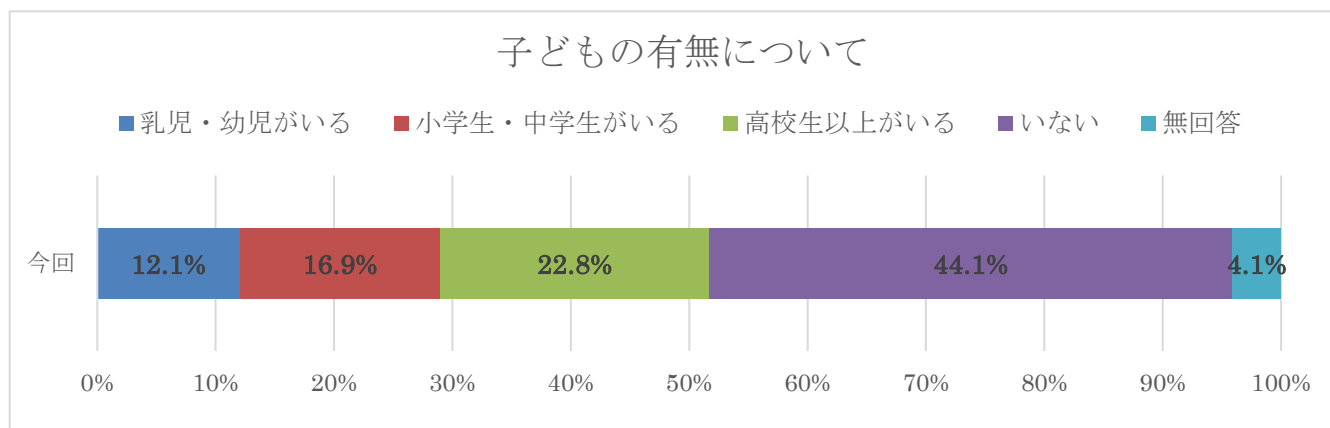
(5) 世帯構成

5年前と比較すると、「本人のみ」の単身世帯と「親・子（2世代）」の割合が増えました。



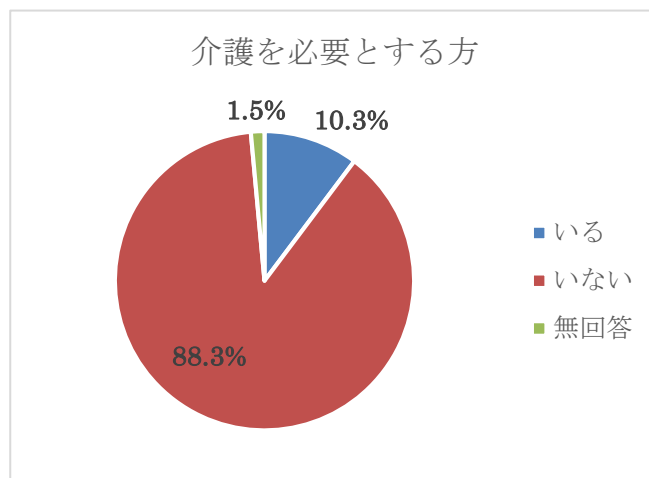
(6) 子どもの有無

子どもがいる世帯は全体で 51.8%でした。



(7) 介護を必要とする方の有無【R3 より】

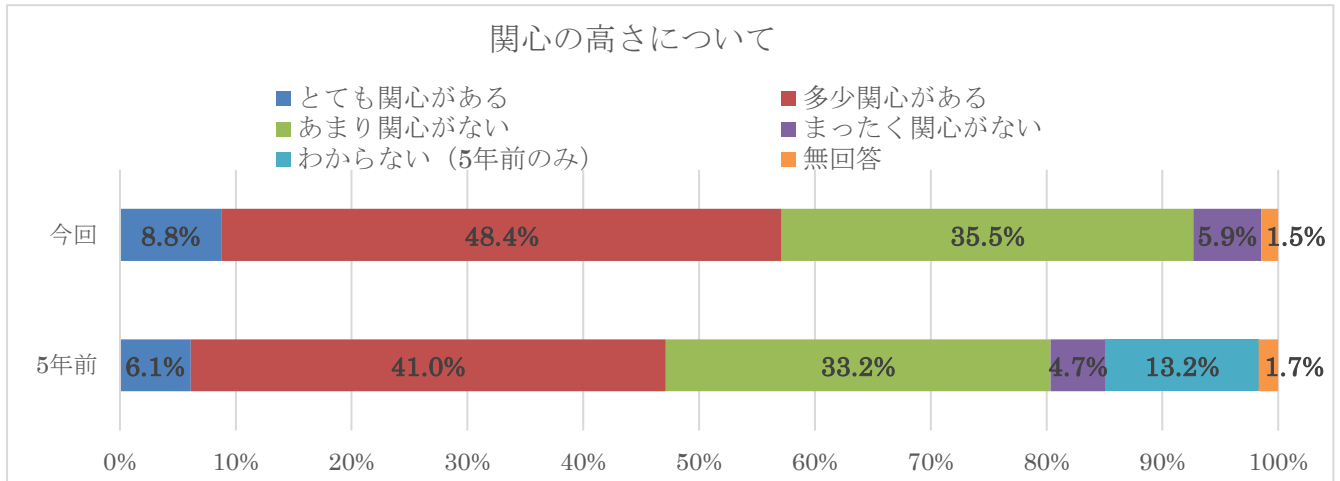
今回新たに設けた質問では、右の円グラフのとおり、要介護者が「いる」と答えた方は 273 人中 28 人で 10.3%、「いない」は 273 人中 241 人で 88.3%でした。



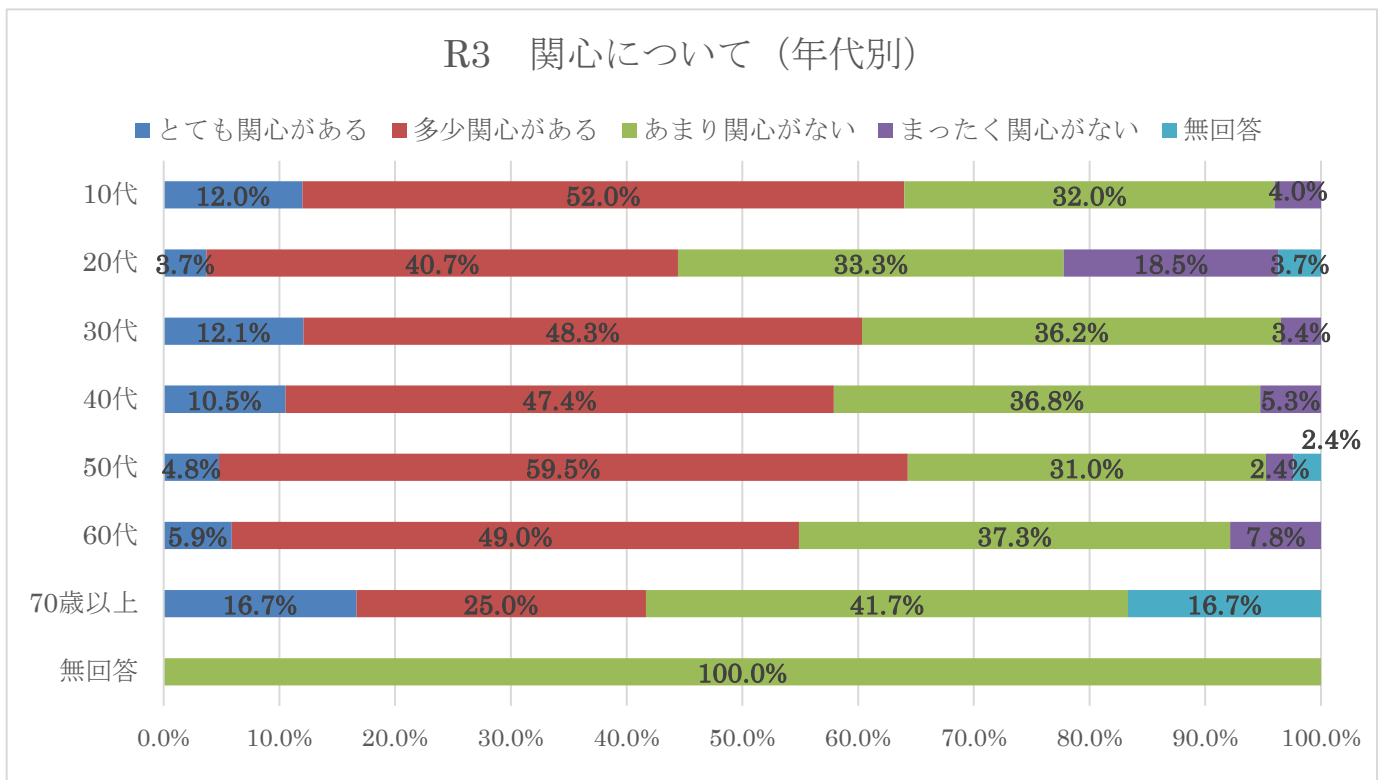
3. 男女共同参画に関する事項

(1) 関心について【問1】

5年前と比較すると、「とても関心がある」「多少関心がある」の割合が増え、合わせて「関心がある」と答えた方は全体で約6割程度という結果になりました。

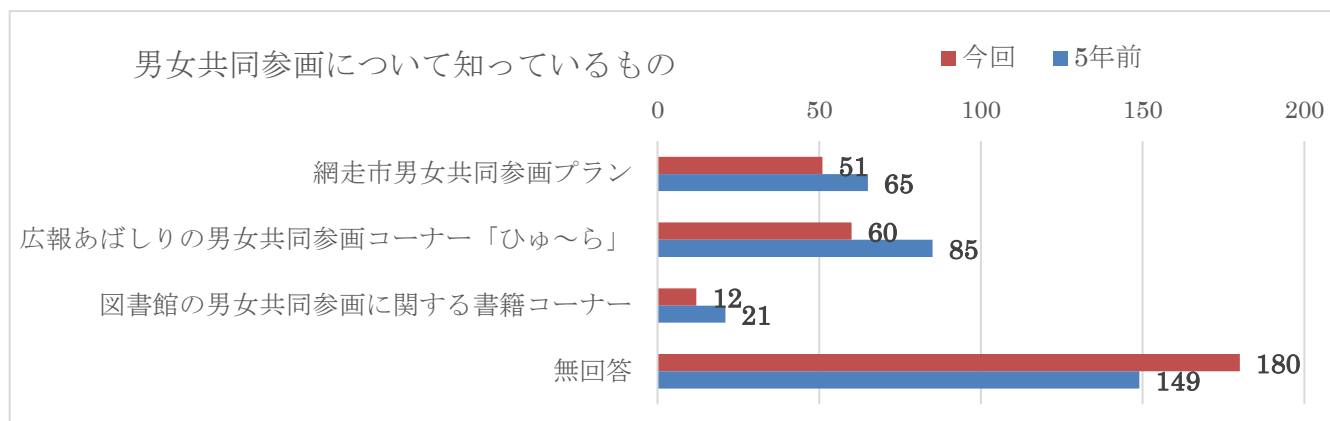


また、年代別では、70歳以上と20代の関心の低さがうかがえます。



（２）市の取り組みの認知度（複数回答）【問２】

５年前よりも全体的に取り組みの認知度が下がり、無回答が増えました。

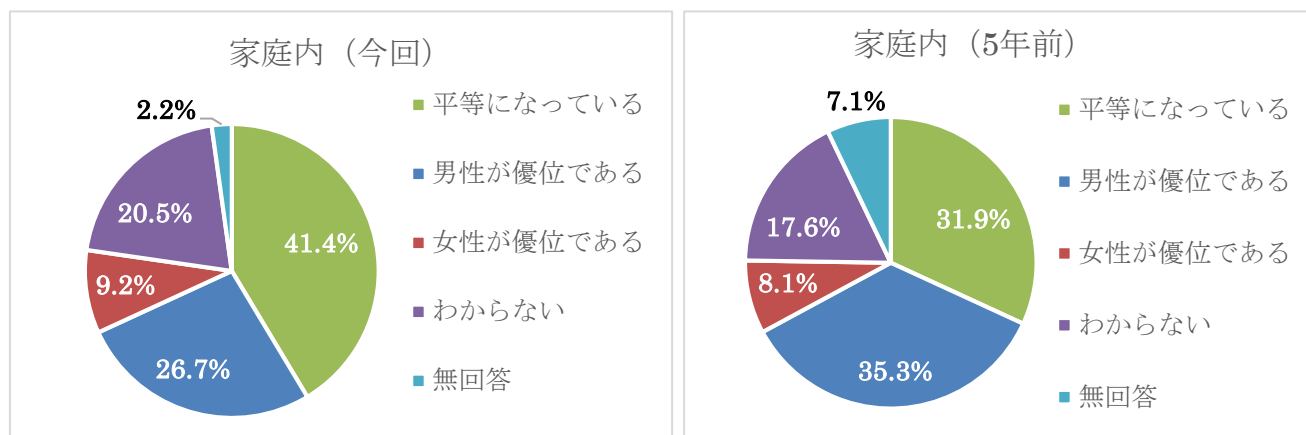


（３）日常のさまざまな場における男女の平等性について【問３】

５年前と比較すると、家庭内や職場では男女が平等になっているとの回答が増えましたが、「政治の場」や「慣習・しきたり」などについては、依然として男性が優位であるとの回答割合が高い結果となりました。

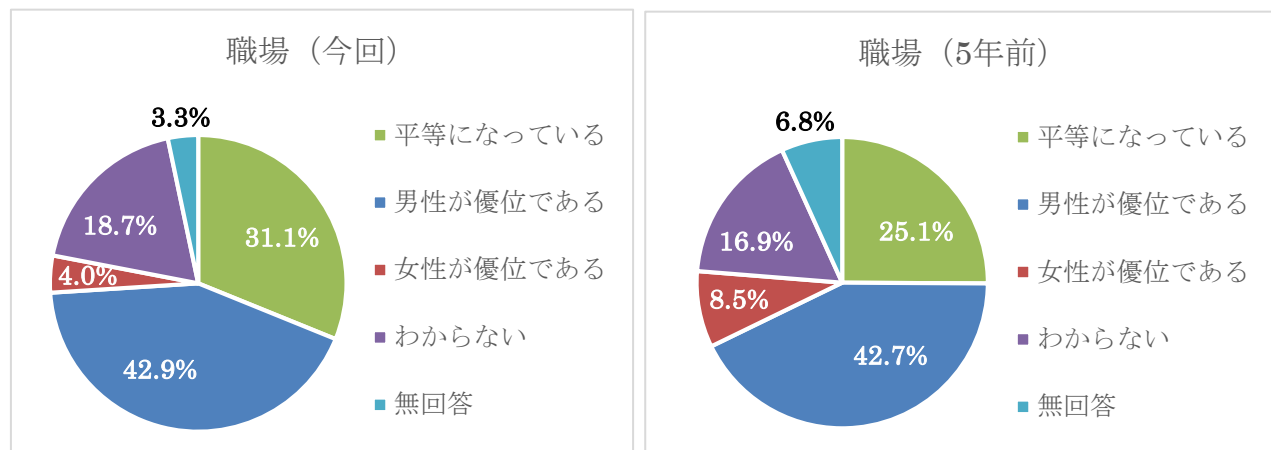
ア．家庭内での平等性

「平等になっている」との回答が増えました。



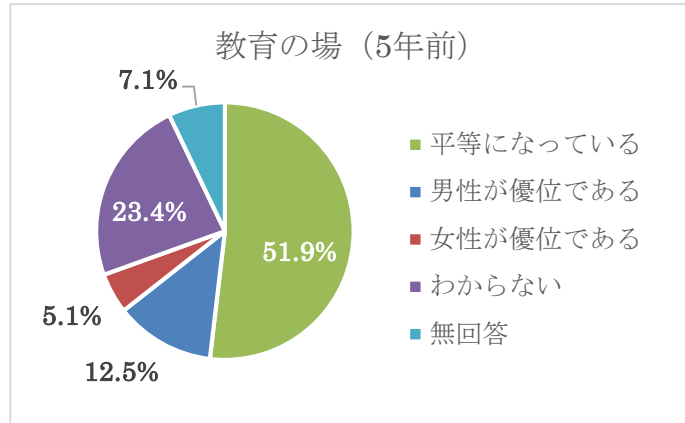
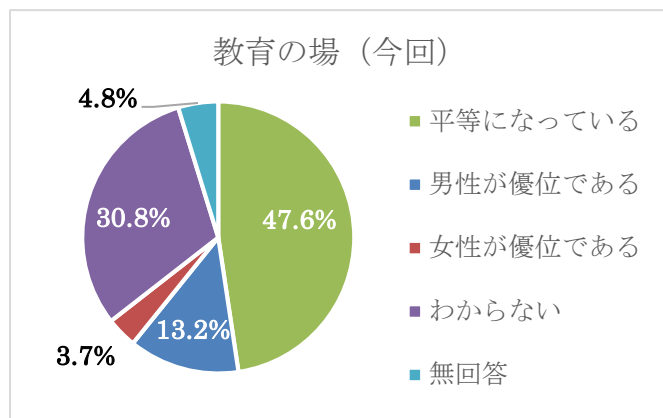
イ．職場内での平等性

「男性が優位」との回答が４割以上ですが、「平等」との回答も１割程度増えました。



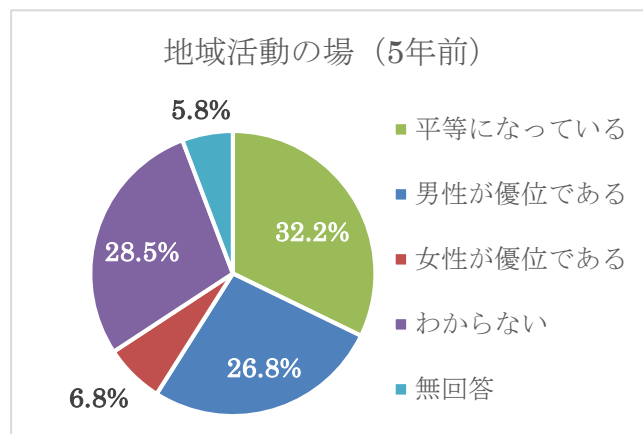
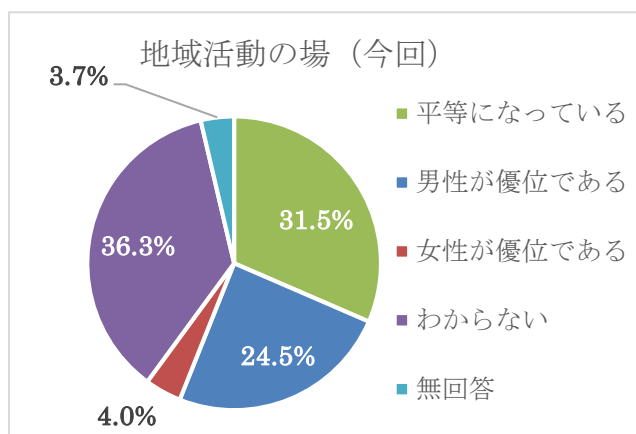
ウ. 教育の場での平等性

約 5 割が「平等」と答えています。



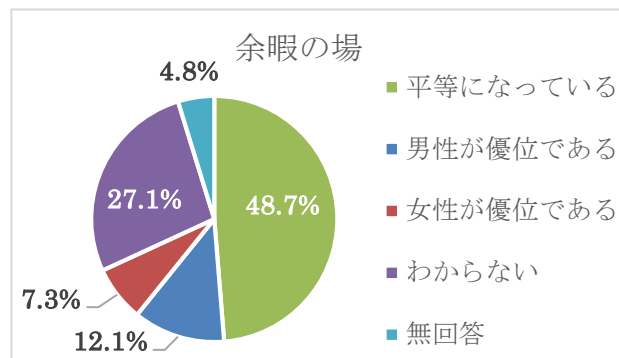
エ. 地域活動の場での平等性

前回とほぼ同様の結果ですが、「わからない」との回答が増えました。



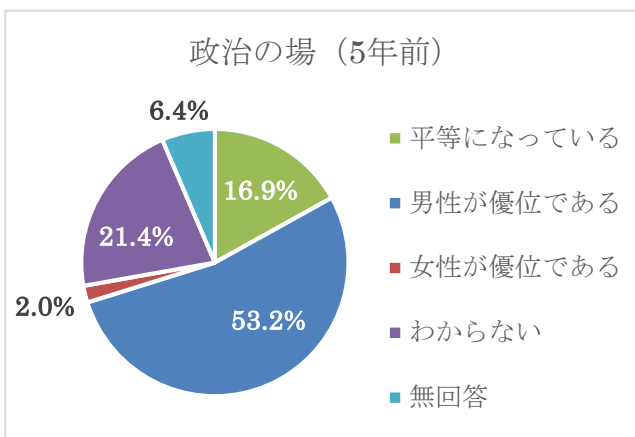
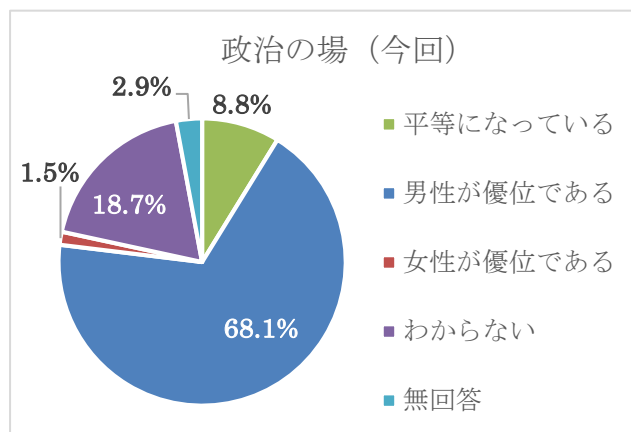
オ. 余暇の場での平等性（今回より）

新たに設けた質問では、約 5 割が「平等になっている」と答えています。



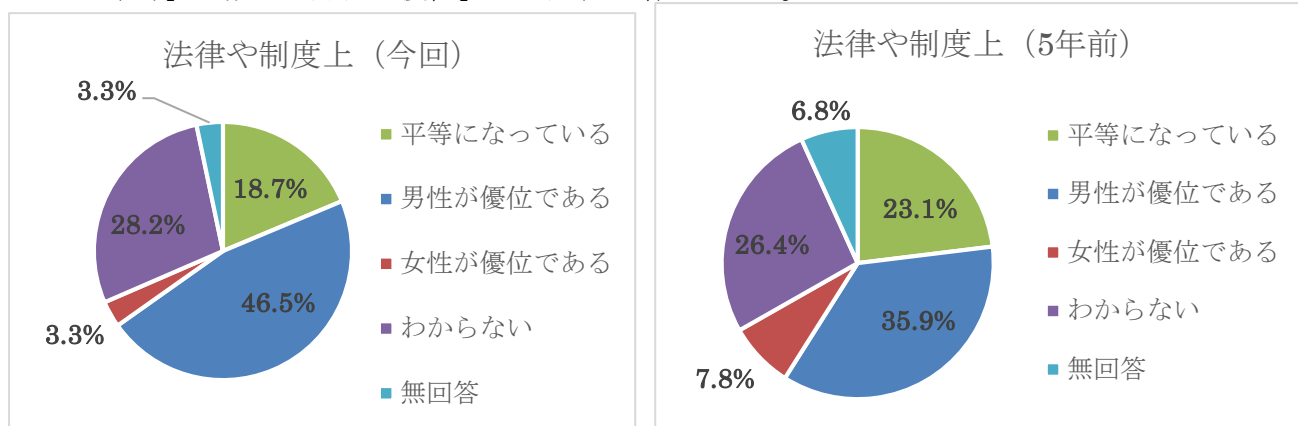
カ. 政治の場での平等性

「男性が優位」との回答が増え、約 7 割を占めました。



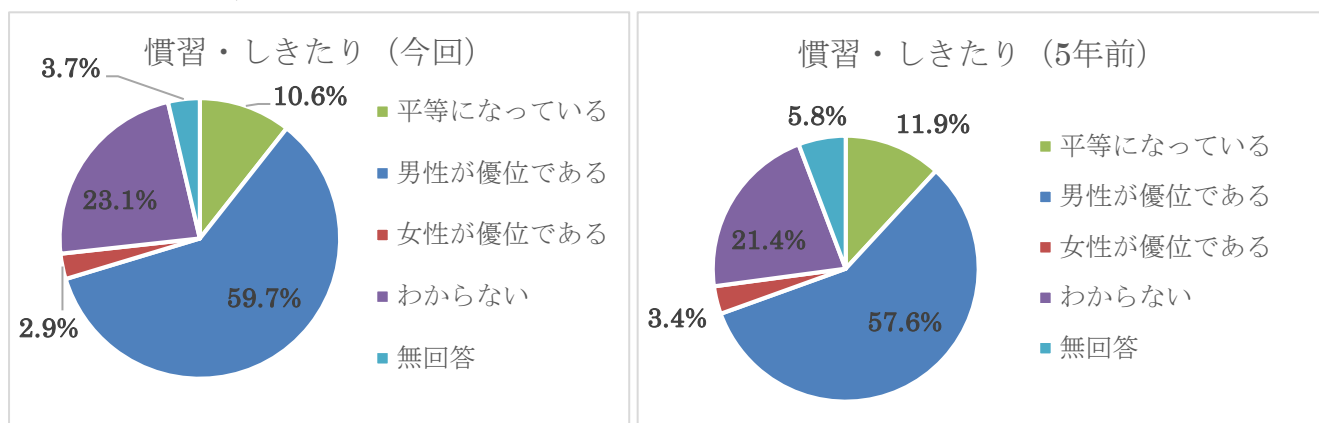
キ. 法律や制度上での平等性

「平等」が減り「男性が優位」との回答が増えました。



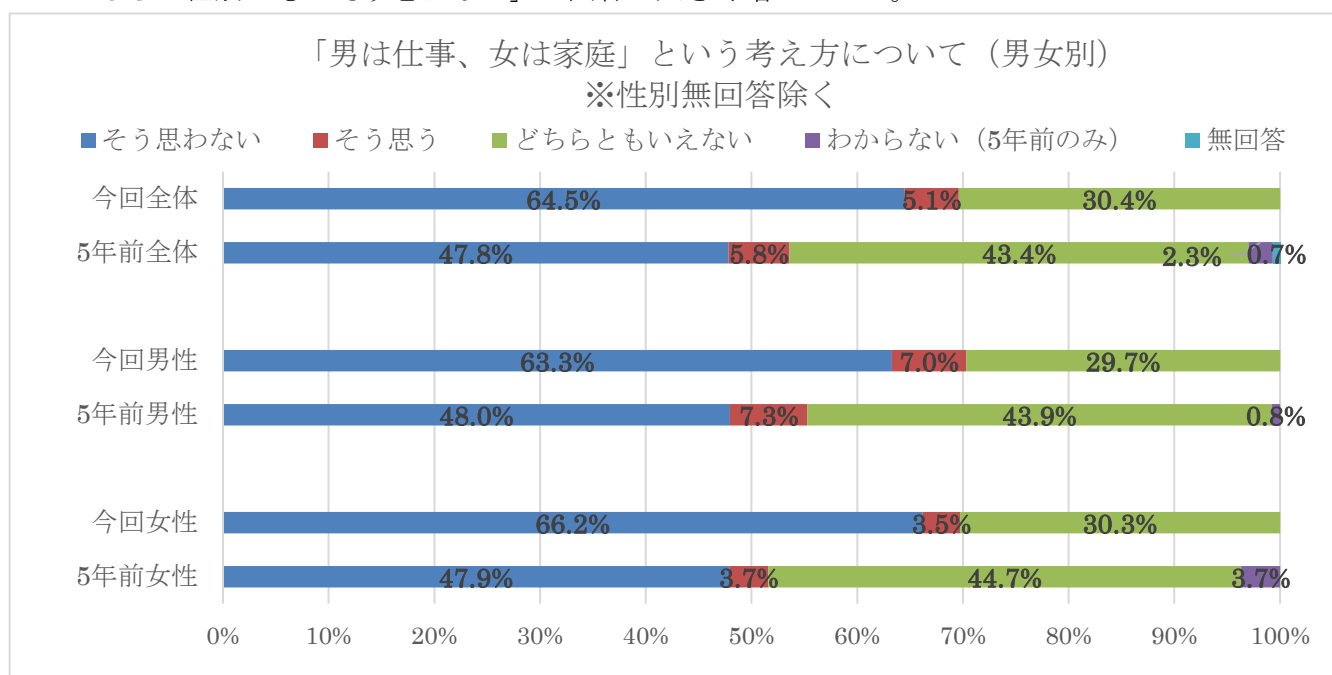
ク. 慣習・しきたりの中での平等性

「男性が優位」との回答が多く、約6割を占めました。

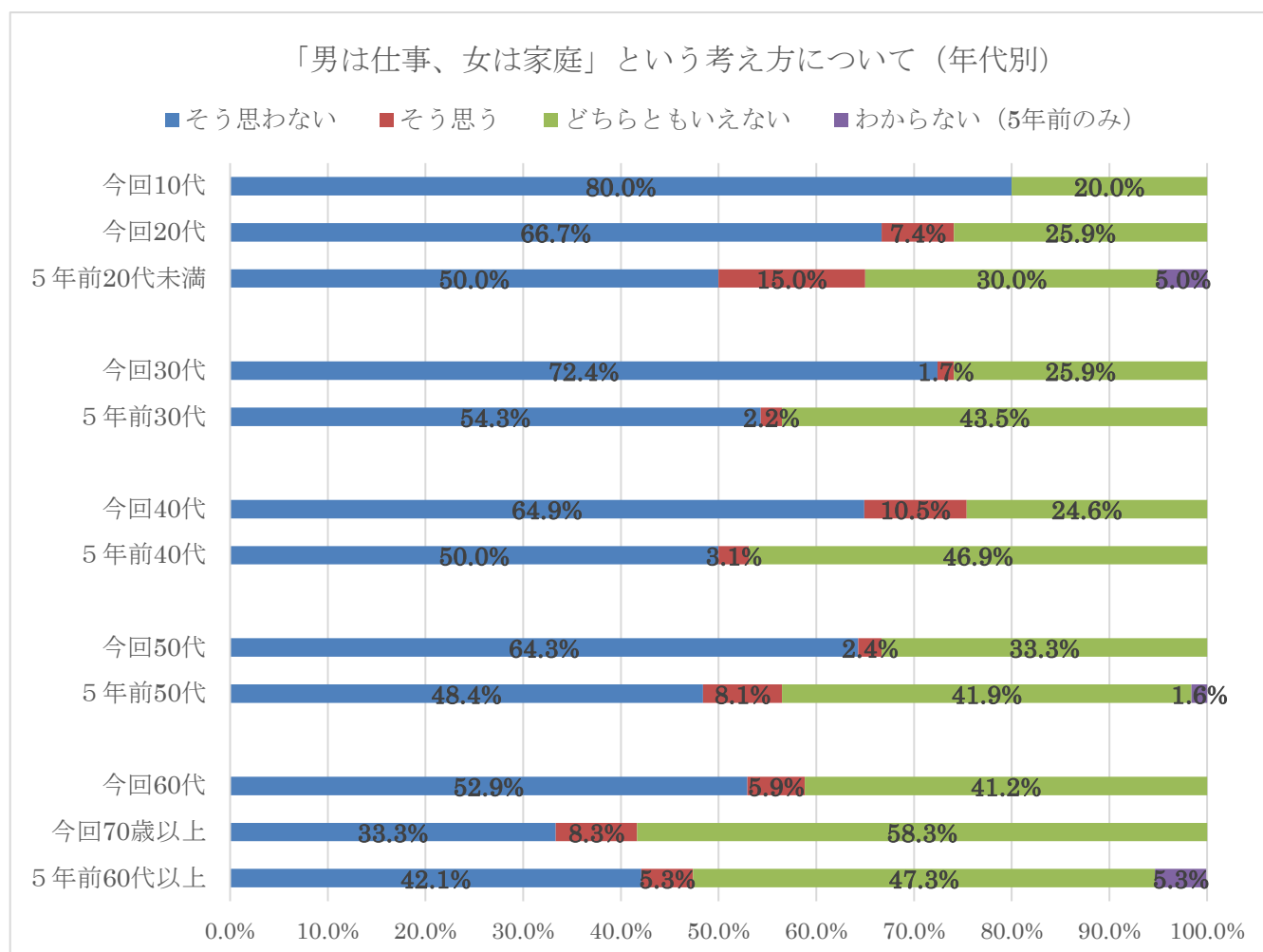


（4）「男は仕事、女は家庭」という考え方について【問4】

どちらの性別でも「そう思わない」と回答が大きく増えました。



また、年齢別に見ると、どの年齢層も「そう思わない」の回答が増えているものの、年齢が上がるにつれてその回答が少なくなり、「どちらともいえない」との回答が増えています。



（5）「男は仕事、女は家庭」という考え方に対し「そう思う」と回答した理由【問5】

新たに設けた「そう思う」（14名）の理由は以下のとおりでした。

項 目	件 数
1. 男性は仕事、女性は家事・育児・介護に向いているから	9
2. 家族を養うのは男性の責任で、家事・育児・介護は女性の責任だから	1
3. 妻が働きに出ると、家事・育児・介護に差し支えるから	1
4. 女性は仕事を持っても、不利な状況におかれるから	0
5. 夫と妻の役割分担をはっきりした方が家庭生活がうまくいくから	0
6. その他（自由記述） ・昔はそれでうまくいっていた。新しいことをするのは簡単ではない。	3 (うち記述有 1)

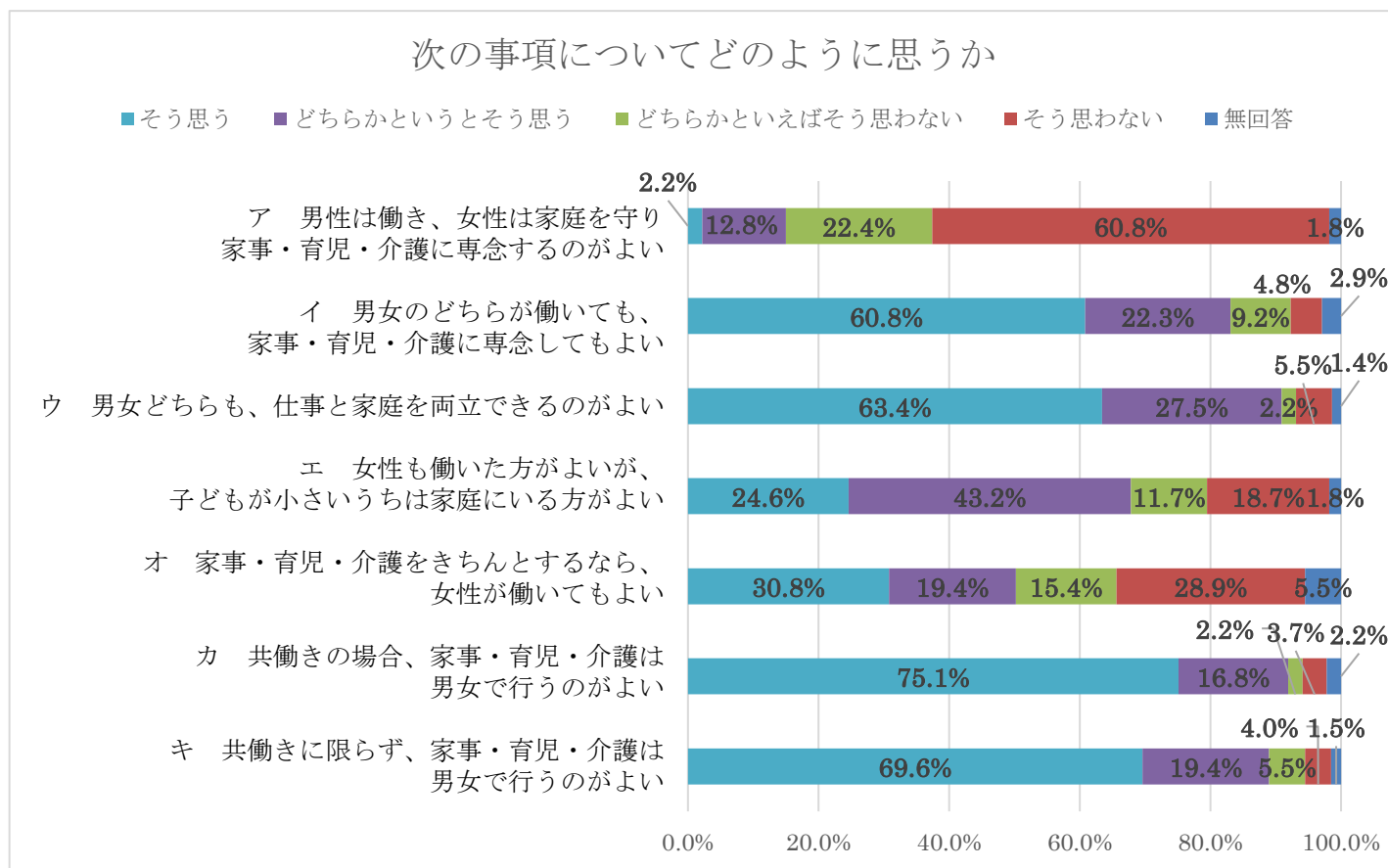
（６）これからの子どもはどのような方針で育てるのが望ましいと思うか【問６】

新たに設けた子育てについては、「4.男女の分け隔てなく、その子の個性を大事に育てる」が最も多く、次に「2.女の子も経済的に自立できるよう、男の子も家事ができるように育てる」となりました。

項 目	件 数
1. 「男は仕事、女は家庭」という役割分担を守るように育てる	1
2. 女の子も経済的に自立できるよう、男の子も家事ができるように育てる	70
3. 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる	8
4. 男女の分け隔てなく、その子の個性を大事に育てる	176
5. その他（自由記述） ・ 2 と 4 の要素を取り入れて。2 だと女・男の性差が前提となってしまう。 4 をベースに 2 の方法をとる考え方がいいと思う。 ・ 性の差は尊重の上で、その子の個性を大事に育てる方針がいいと思う。 など	10 (うち記述 9)
6. 無回答	8

４．ワーク・ライフ・バランスについて（今回より）

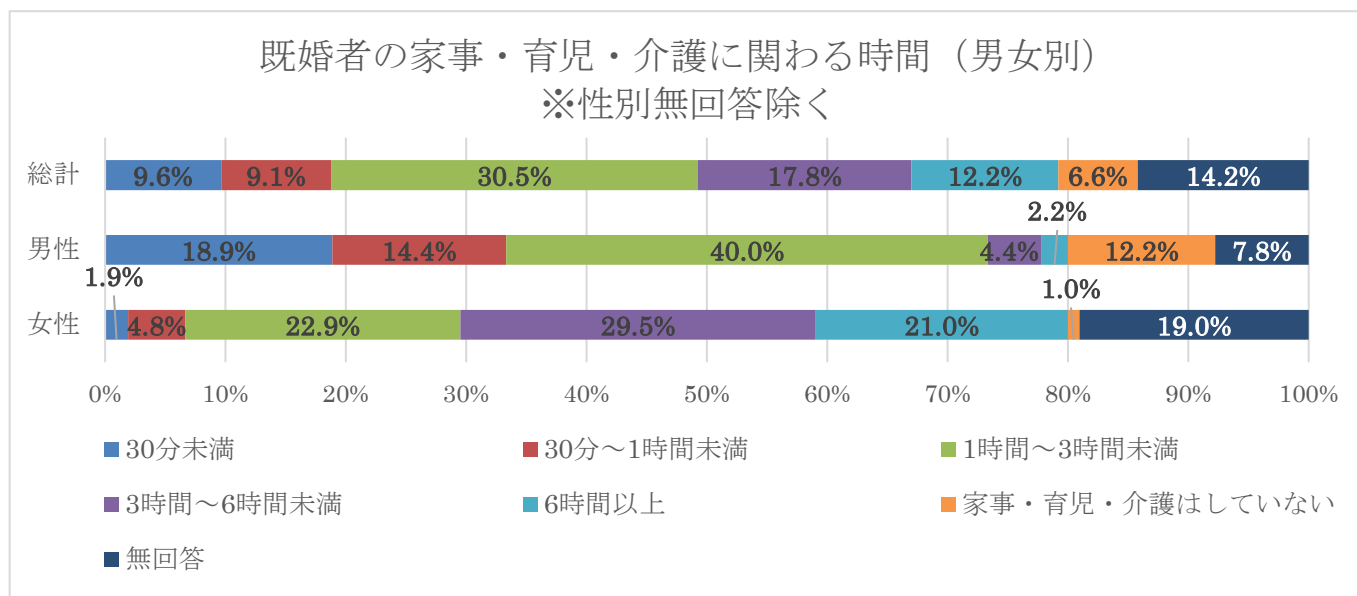
（１）仕事と家事・育児・介護の担い手について【問７】



男女の役割を明確に分ける「ア」の考え方には、約 8 割が「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」と回答しました。反対に、働き方に関わらず家庭のことは男女で一緒にやるのがよいという「ウ・カ・キ」の選択肢では約 9 割が「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答しました。

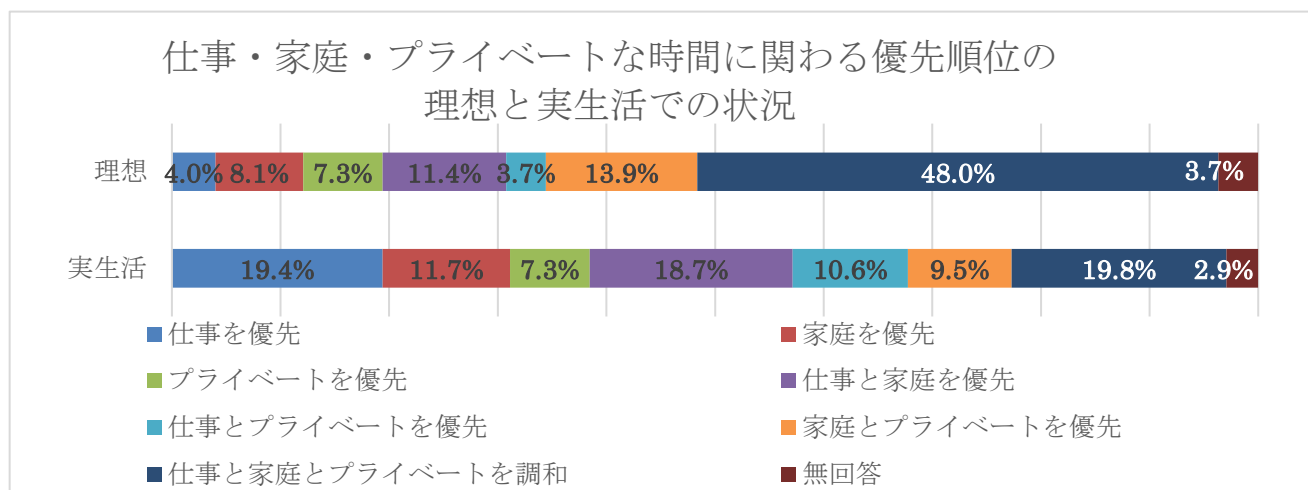
（２）既婚者の家事・育児・介護に関わる実際の時間について【問 9】

男性では「1～3 時間未満」が 40.0%で最も多く、次いで「30 分未満」が 18.9%なのに対し、女性では「3～6 時間未満」が 29.5%で最も多く、次いで「1～3 時間未満」が 22.9%になりました。

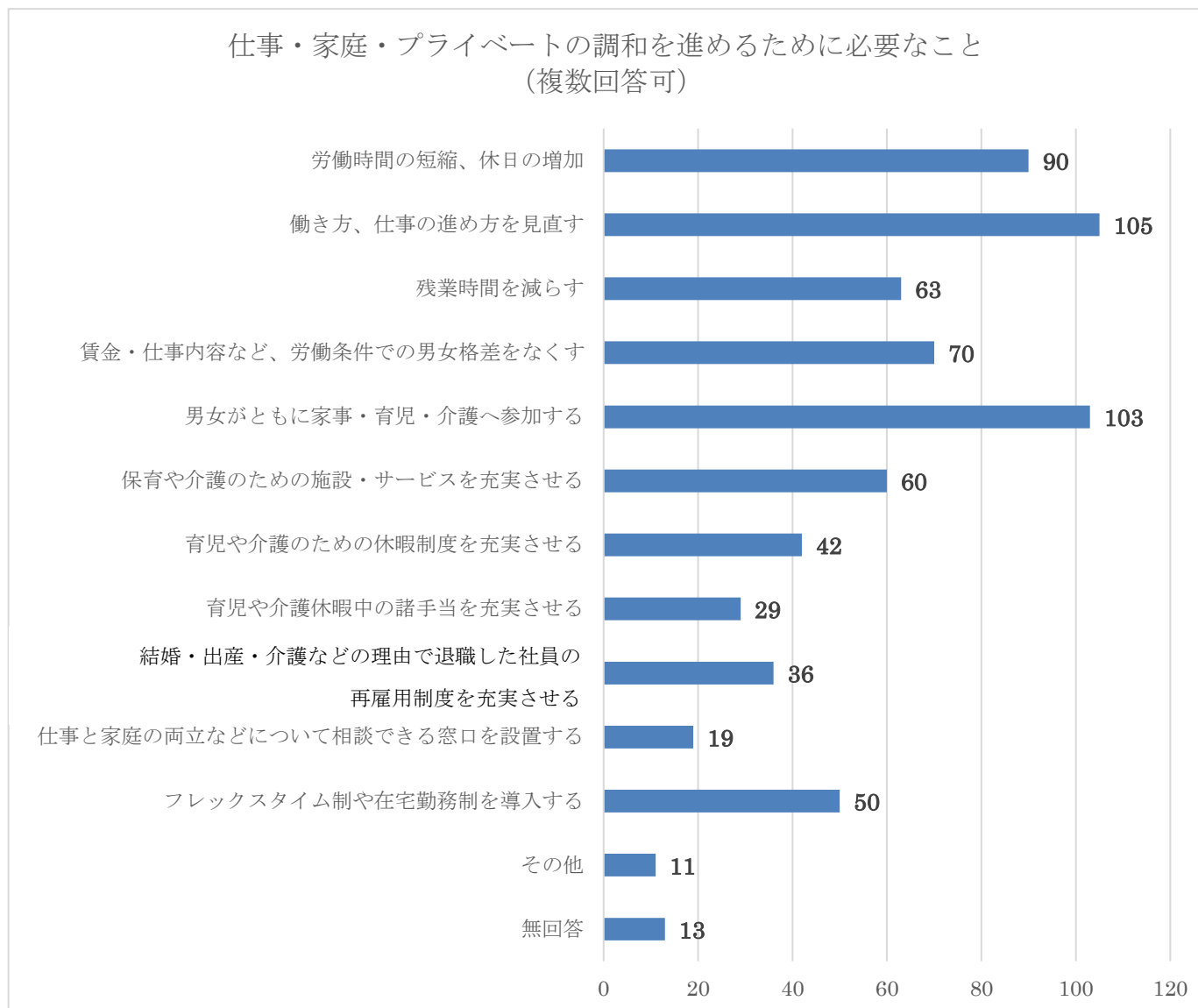


（３）仕事・家庭・プライベートな自由時間について【問 10～問 12】

理想では、「仕事と家庭とプライベートを調和」が 48.0%と最も多いですが、実生活ではその割合が 19.8%に減っています。また、「仕事を優先」では 4.0%から 19.4%へ、「家庭を優先」では 8.1%から 11.7%へ、「仕事と家庭を優先」では 11.4%から 18.7%へ増え、理想と実生活に乖離があることがうかがえます。



また、仕事・家庭・プライベートの調和を進めるためには、「働き方や仕事の進め方の見直し」や「男女がともに家事・育児・介護に参加する」といった男女の協力が多くあげられました。

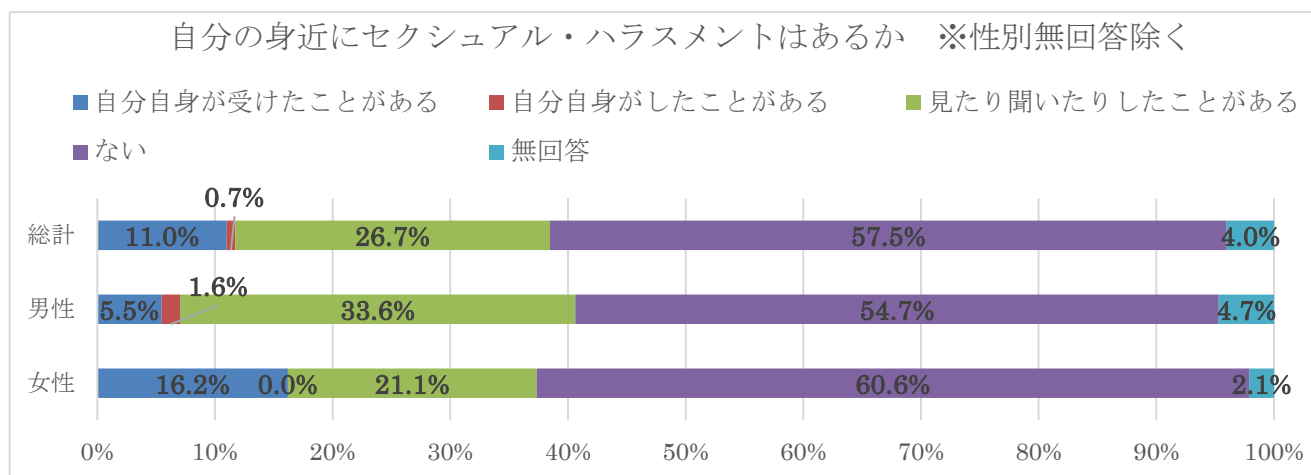


5. セクシュアル・ハラスメント¹について（今回より）

（1）身近なセクシュアル・ハラスメントの認識について【問13】

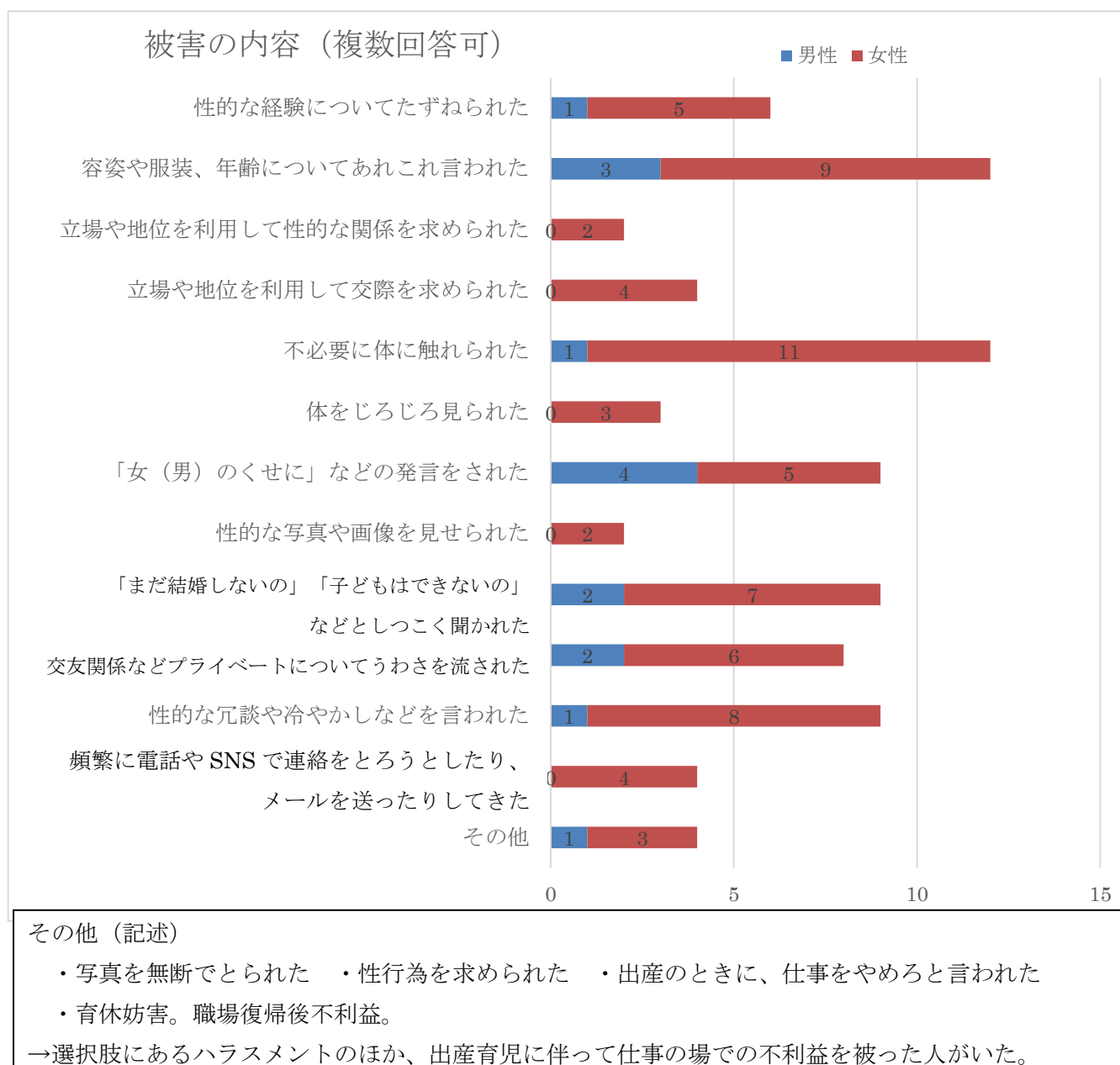
「ない」が約6割と最も多く、次に「見たり聞いたりしたことがある」が約3割、約1割が「自分自身が受けたことがある」となっています。また、男女別では、被害を受けた方は女性で16.2%、男性で5.5%となっています。

¹ 相手の意に反した性的な性質の言動のこと。身体への不必要な接触、性的関係の強要、性的な噂の流布などさまざまなものがある。



(2) 被害の内容について（複数回答可）【問14】

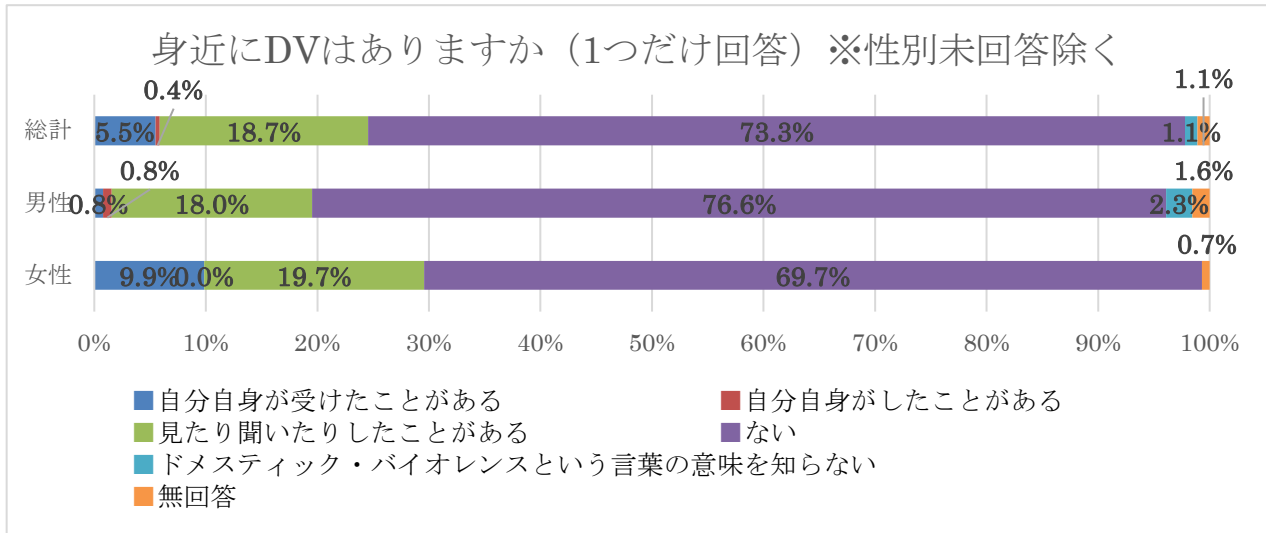
女性では「不必要に体を触られた」が最も多く、男性では『男のくせに』などの発言をされた」が最も多くなりました。



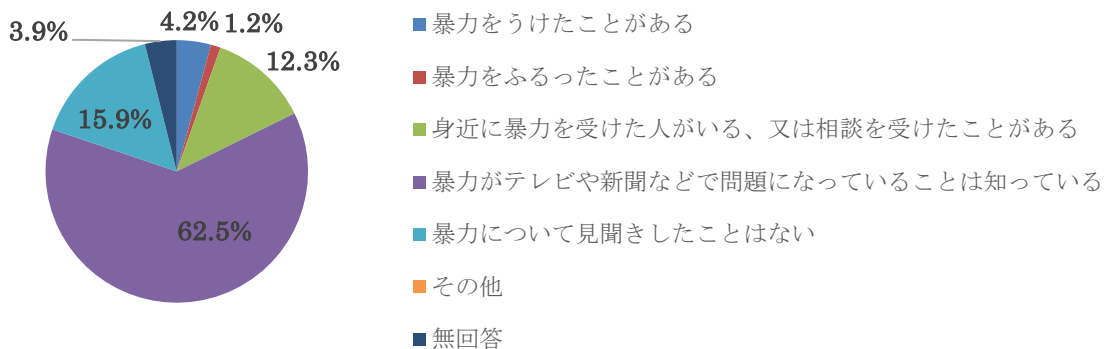
6. ドメスティック・バイオレンス (DV) ²について

(1) 身近にドメスティック・バイオレンスがあるか【問15】

自分自身が受けたことがあるという方は全体の 5.5%ですが、男女別では女性は 9.9%と多くなりました。また、「ドメスティック・バイオレンスという言葉の意味を知らない」と回答したのは 1.1%でした。



【参考：5年前調査】DVを経験したり、身近で見聞きしたりしたことはありますか（複数回答）

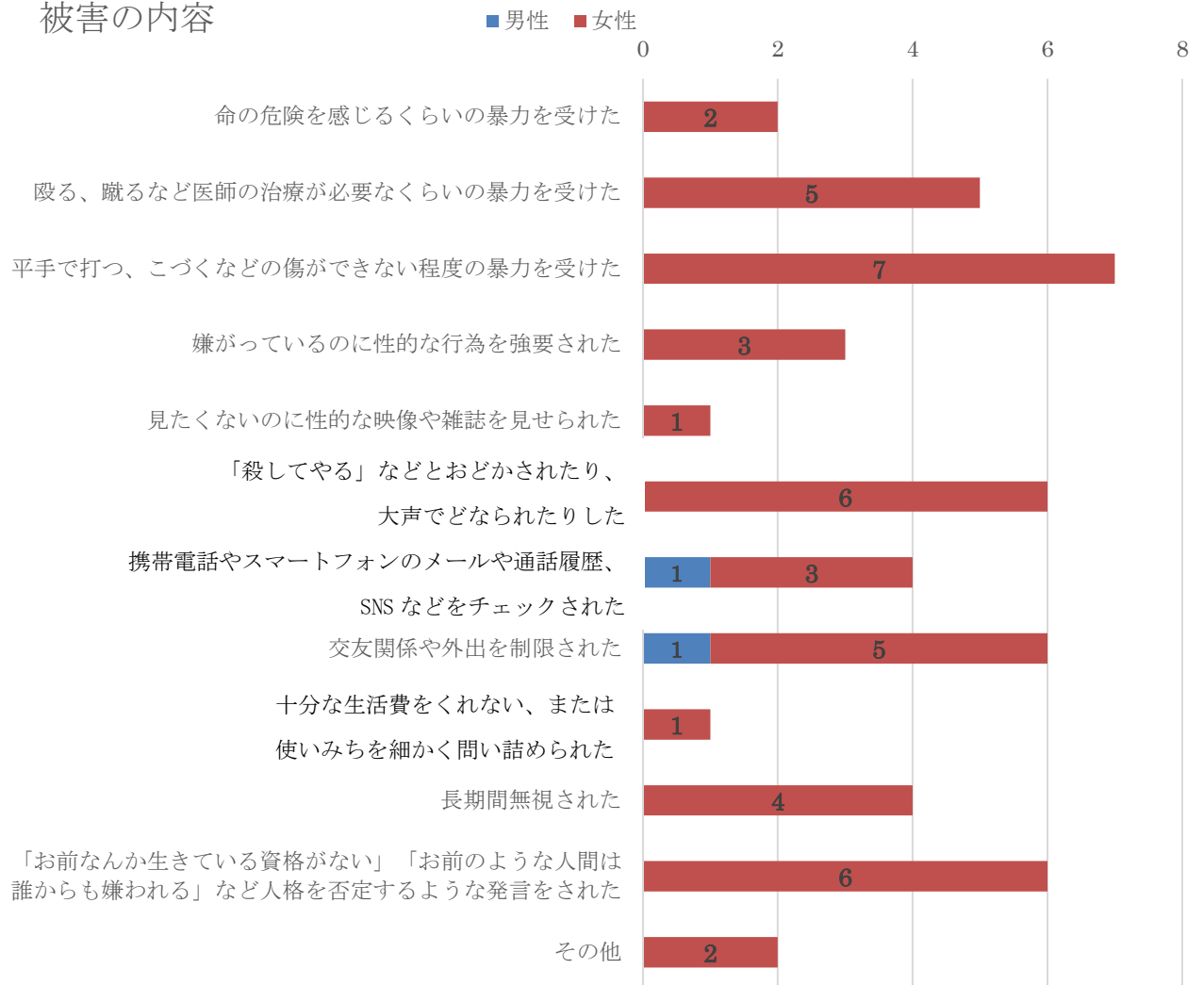


(2) 被害の内容について（複数回答可）【問16（今回より）】

平手で打つなど身体的な暴力を振るわれるものが最も多く、次に、大声で怒鳴られたり、人格を否定されたりするなどの被害も多くみられます。

² 夫婦（恋人）間などで、パートナーから受ける暴力のこと。殴る、蹴るなどの身体的暴力のほか、言葉による精神的なもの、性的なもの、経済的なものなどいろいろな形がある。

被害の内容



(3) ドメスティック・バイオレンス被害を受けた場合の対応について【問17～19】

①被害を受けたことを誰かに打ち明けたり、相談をしたりしたか

選択肢	回答数
相談した	8
どこへも相談しなかった	7

相談をした方としなかった方は、ほぼ同数でした。

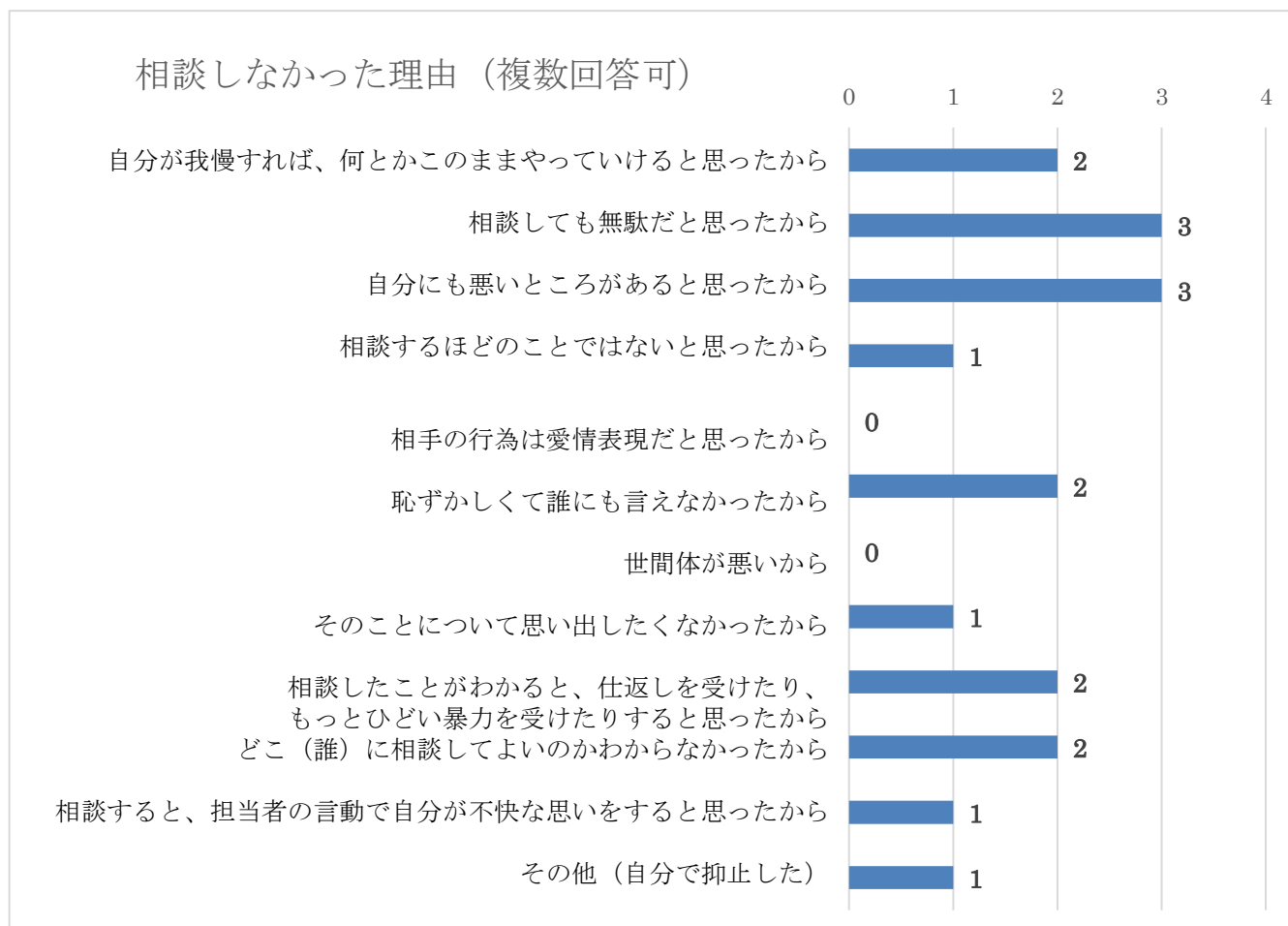
②【相談した方】どこへ相談したか（複数回答可）

選択肢	回答数
家族	2
友人・知人	4
警察	3
網走市の相談窓口	1
その他（記述）	1

相談先は、「友人・知人」が最も多く、次に「警察」となっています。

③【どこへも相談しなかった方】相談しなかった理由は何か（複数回答可）

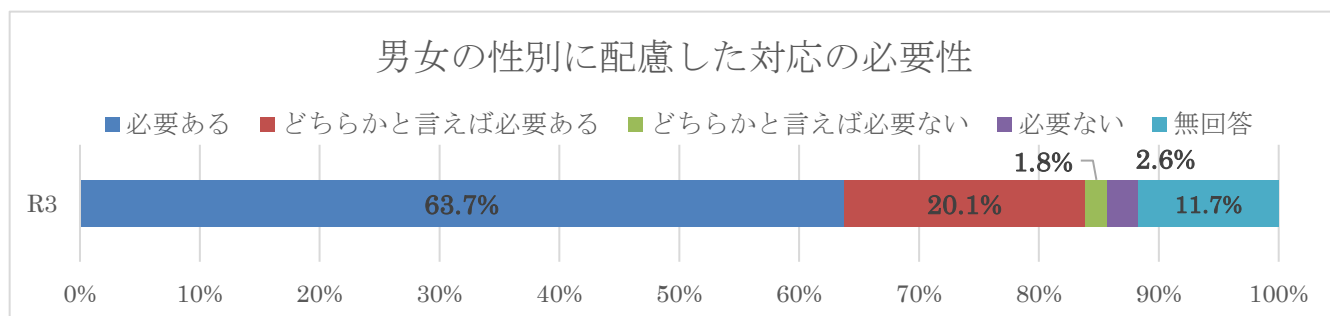
「相談しても無駄だと思ったから」や「自分にも悪いところがあると思ったから」などの回答が多くなっています。



7. 女性の視点からの防災について（今回より）

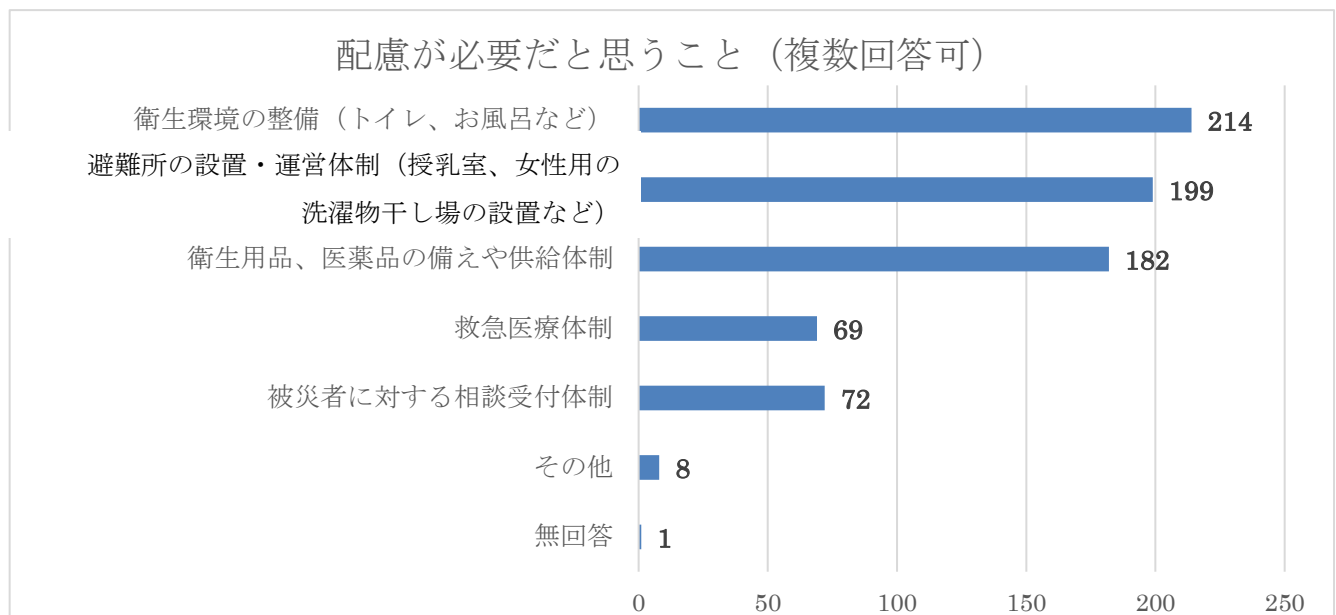
（1）防災・災害復興対策における性別に配慮した対応の必要性【問20】

全体の83.8%が「必要ある・どちらかといえば必要ある」を選択しました。



（２）【必要・どちらかといえば必要の場合】配慮が必要だと考える事項（複数回答可）【問２１】

トイレやお風呂などの衛生環境、授乳、洗濯、衛生用品、医薬品などについての配慮が必要との回答が多くあげられました。



その他（記述 6 件）

- ・小さな子を持つ母等への配慮、ベビー用品（ミルク、おむつ、着替え、子供の食料品・おやつなど）
- ・飲食、投薬（持病の薬の確保）、避難所でできるだけプライバシーの確保
- ・性犯罪の防止
- ・復興時の就労活動支援体制
- ・避難所設営マニュアルなどに対策具体案の明文化、実施

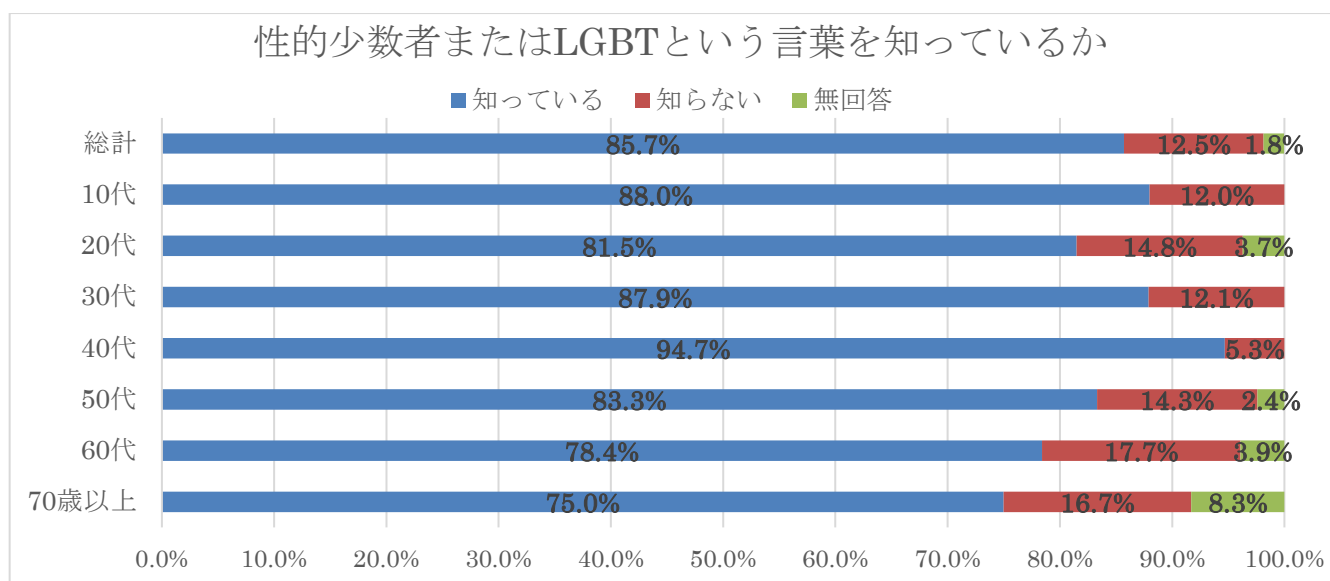
8. 性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）（LGBT）³について（今回より）

（１）性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）（LGBT）という言葉の認識について【問２２】

85.7%が「知っている」と回答しました。

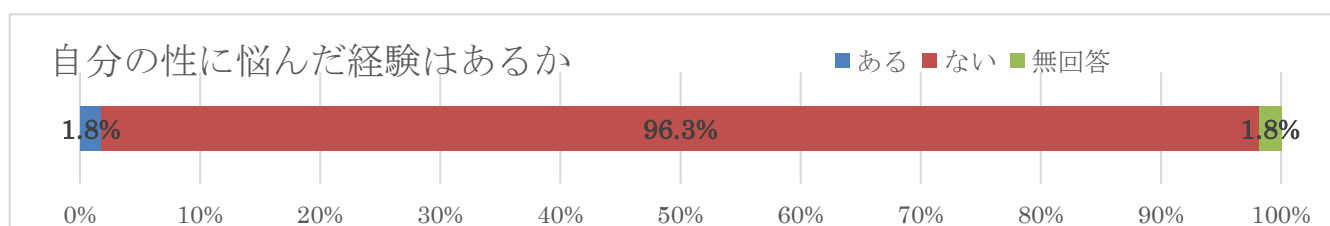
また、年代別では、40代が最も多く、94.7%となっています。

³ 性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）（LGBT）…レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（自身の心の性と体の性が一致しない人）などの総称



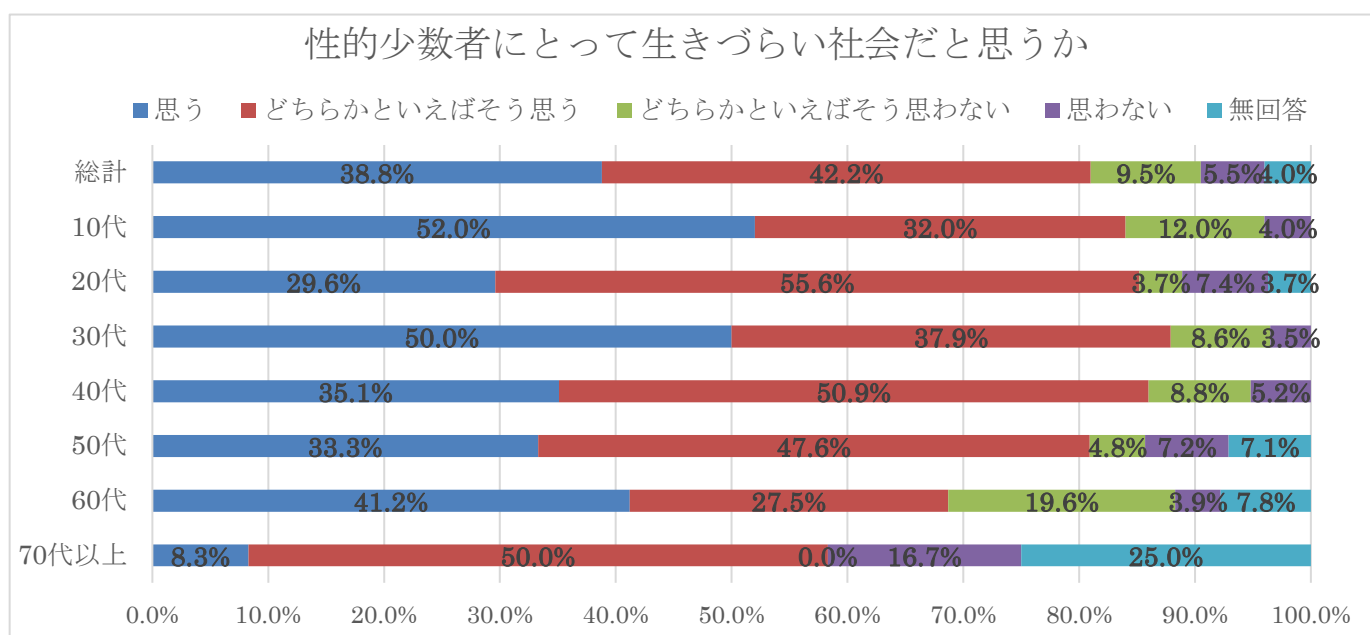
(2) 自身の性（身体の性、心の性、性的指向）について悩んだことはあるか【問23】

「ない」が96.3%、「ある」が1.8%でした。



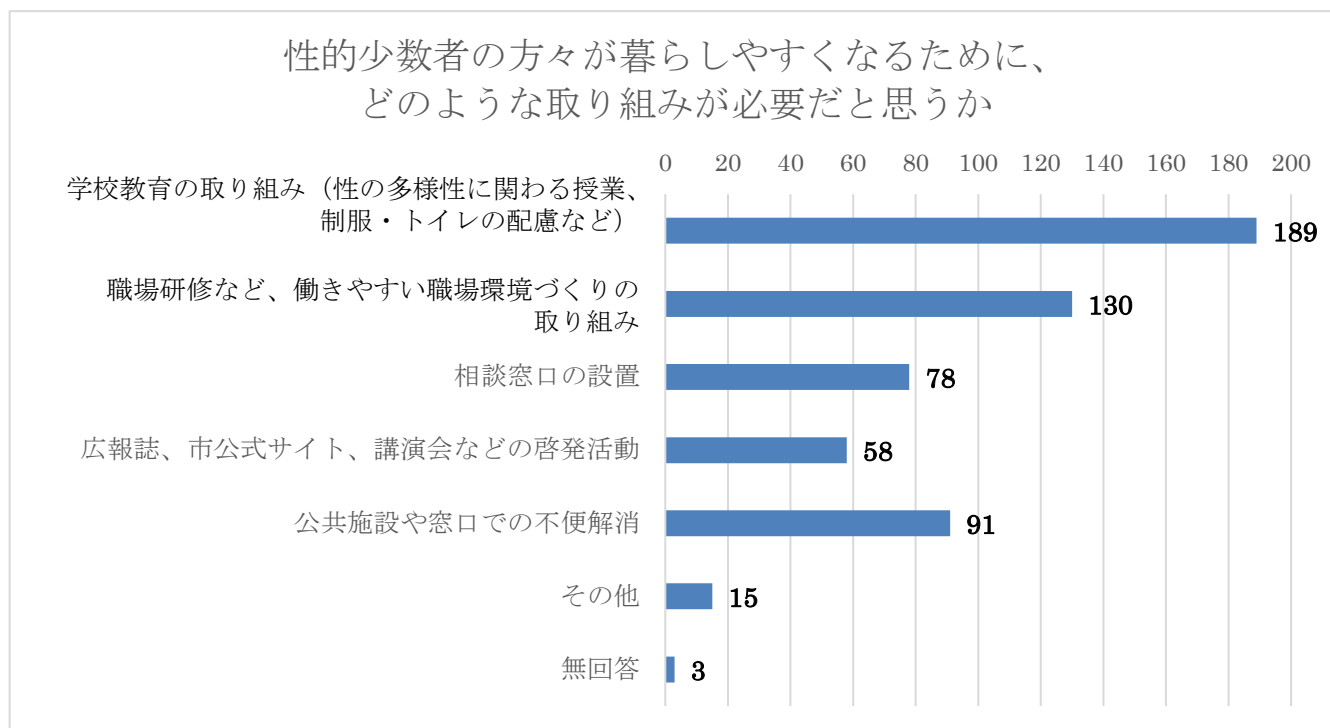
(3) 現在の社会は性的少数者にとって偏見や差別によって生きづらい社会だと思うか【問24】

「思う」「どちらかといえば思う」で81.0%を占めています。年代別では、60代では68.7%、70代以上ではさらに減って58.3%となっています。



(4) 性的少数者も暮らしやすくするためにどんな取り組みが必要だと思うか(複数回答可)【問25】

「学校教育での取り組み」が最も多く、次に「職場研修など、働きやすい職場環境づくりの取り組み」となっています。



その他（記述 14 件）

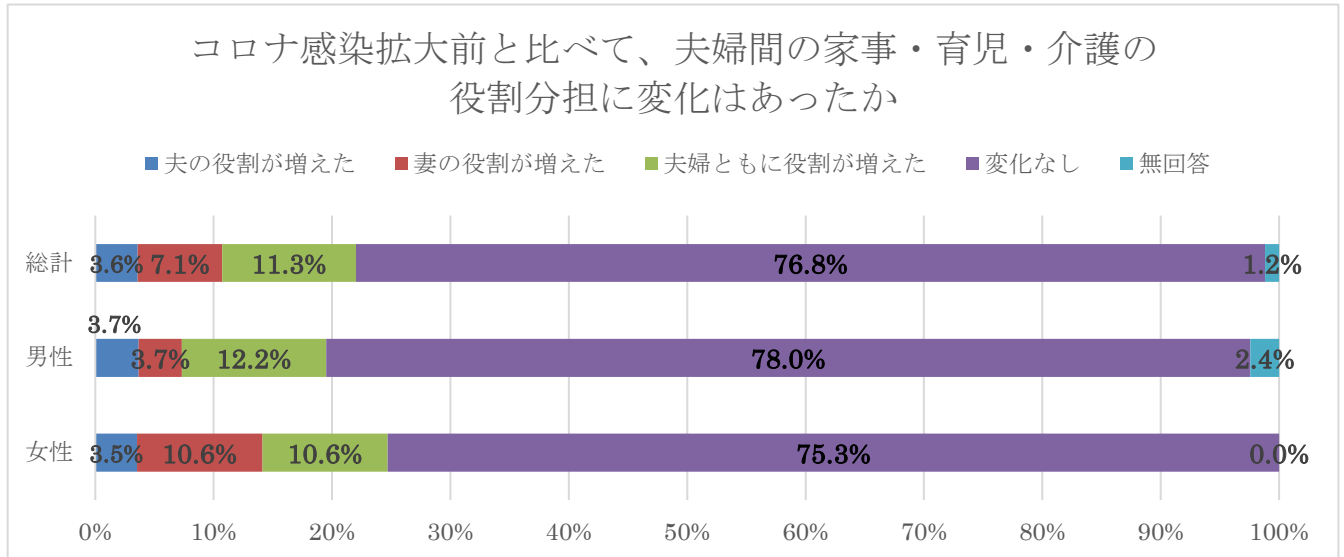
- ・理解
- ・社会の理解
- ・周囲に相談したり、カミングアウトできたりする人間関係作り
- ・本人が公表できる環境／どうしても偏見の目で見えてしまう周りの人間たちの理解をどう広げるか
- ・高齢の方々の意識改革（男は～、女は～という世代）
- ・パートナーシップ条例の制定
- ・一人ひとりの意識、知識をつけるための講習会など
- ・わからない
- ・生物学的科学的な解釈
- ・個人一人一人が男女関係なく考えられるようにならなければ、偏見や差別はなくならないと思う
- ・偏見を無くすよう、様々な意見を広めること
- ・性的少数者に直接聞いたほうがいい
- ・この問題については、自分の理解の範囲を超えていると思う人も存在すると思うので（自分も一部そのような面があると思う）そう簡単に問題は解決しないと思う。
- ・親へのカミングアウトが最初の困難にならぬように、親となる人、なった人への啓もうが一番重要な気がする。

9. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響と生理の貧困について（今回より）

（1）既婚者の家庭生活に関する事項について【問26～問27】

①家庭内での家事・育児・介護に関する役割分担の変化について

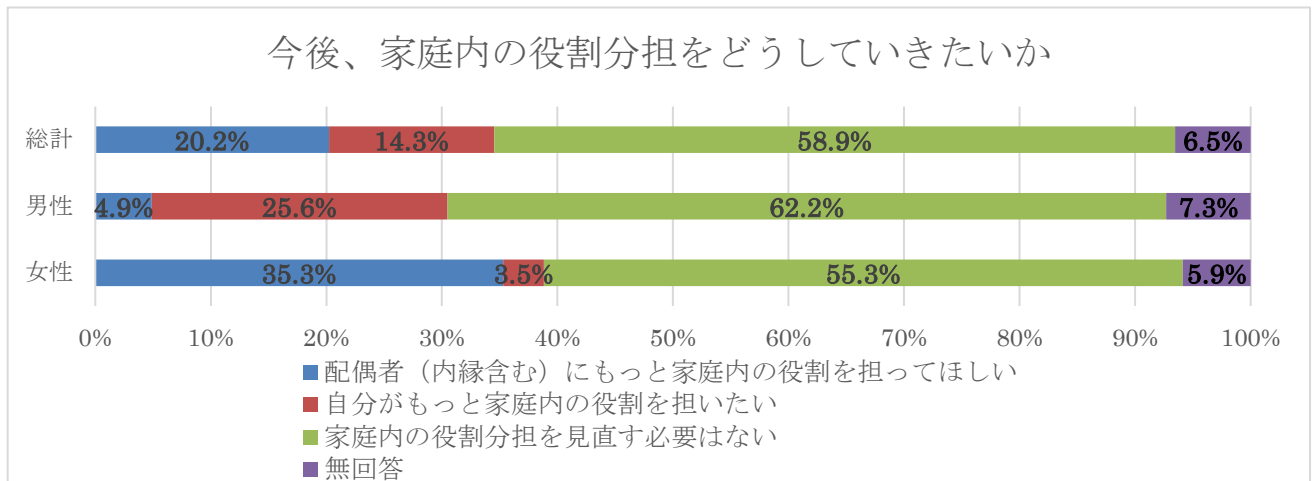
「変化なし」が76.8%と最も多く、次に「夫婦ともに役割が増えた」が11.3%となっています。



②今後の役割分担の希望について

「家庭内の役割分担を見直す必要はない」が最も多く58.9%となっています。

女性では「配偶者にもっと家庭の役割を担ってほしい」が35.3%となっています。



（2）仕事に関する事項について【問28～問29】

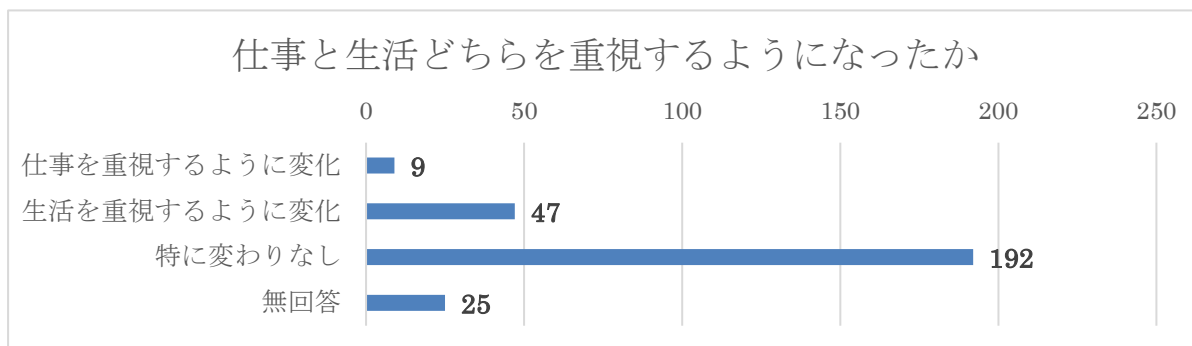
①新型コロナウイルス感染症拡大による働き方の変化（3つまで選択）

「特に変わりなし」が最も多く、次に「無回答」、「労働時間の減少」、「労働時間の増加」となっています。

選択肢	回答数
テレワークが増えた（在宅勤務、モバイルワークなど）	13
労働時間が減少した	30
労働時間が増加した	22
労働時間が柔軟になった（時差出勤など）	10
新型コロナウイルス感染症に関する理由で会社を休んだ	8
新型コロナウイルス感染症に関する理由で会社を退職した	7
解雇された	0
廃業した	1
特に変わりなし	116
その他 ・ワクチン強制接種（拒否は解雇、副反応は自己責任）ハラスメントがあった ・学生アルバイトがしにくくなり、人手不足になった ・研修関係の中止やオンライン化、交流事業の減少 ・休業した ・収入が減った など	15
無回答	79

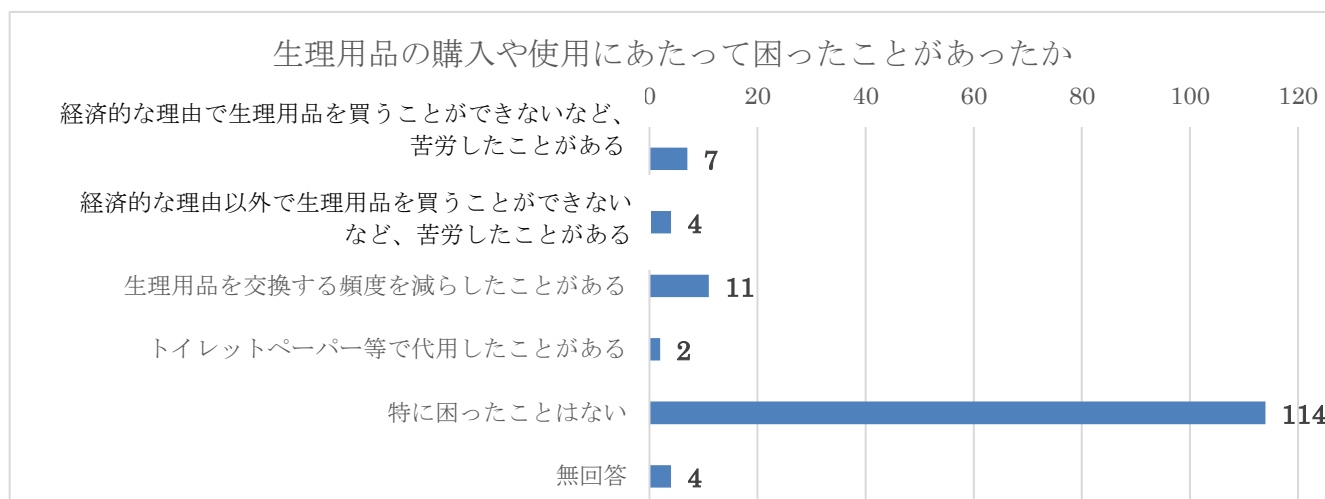
②仕事と生活に関する意識変化について

「特に変わりなし」が最も多く、次に「生活を重視するように変化」となっています。



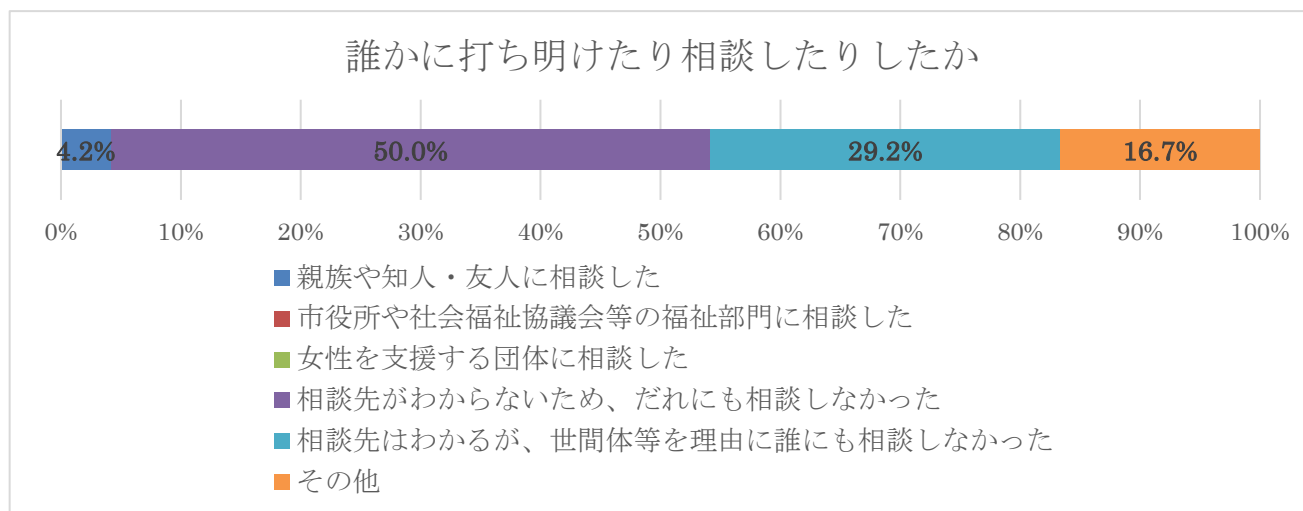
（３）生理の貧困について（女性のみ回答）【問３０～問３１】

①生理用品の購入や使用にあたって困ったことがあったか（複数回答可）



②【困った経験があった方】誰かに打ち明けたり相談したりしたか

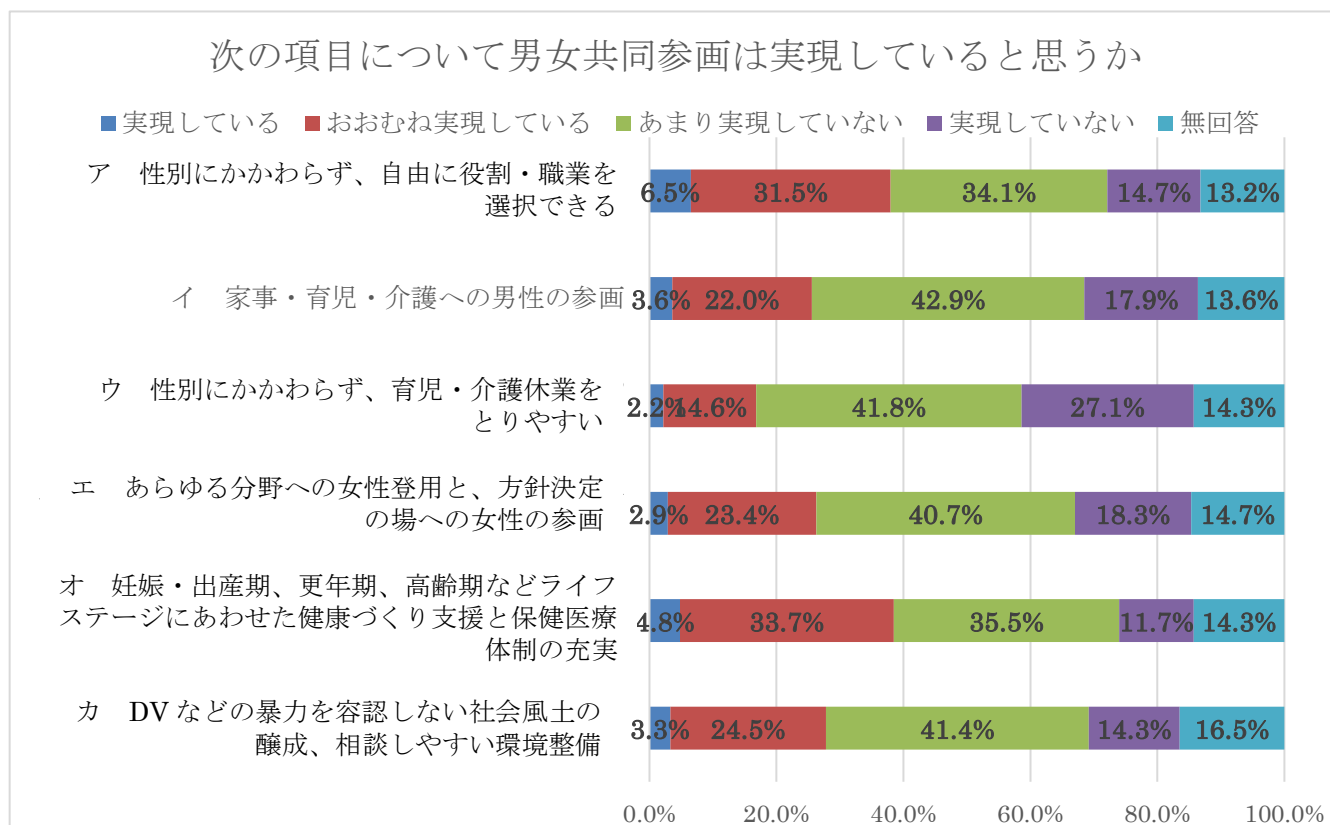
半数程度の方が「相談先がわからないため、だれにも相談しなかった」が最も多く、50.0%となっています。



10. 網走市の男女共同参画の取り組みについて

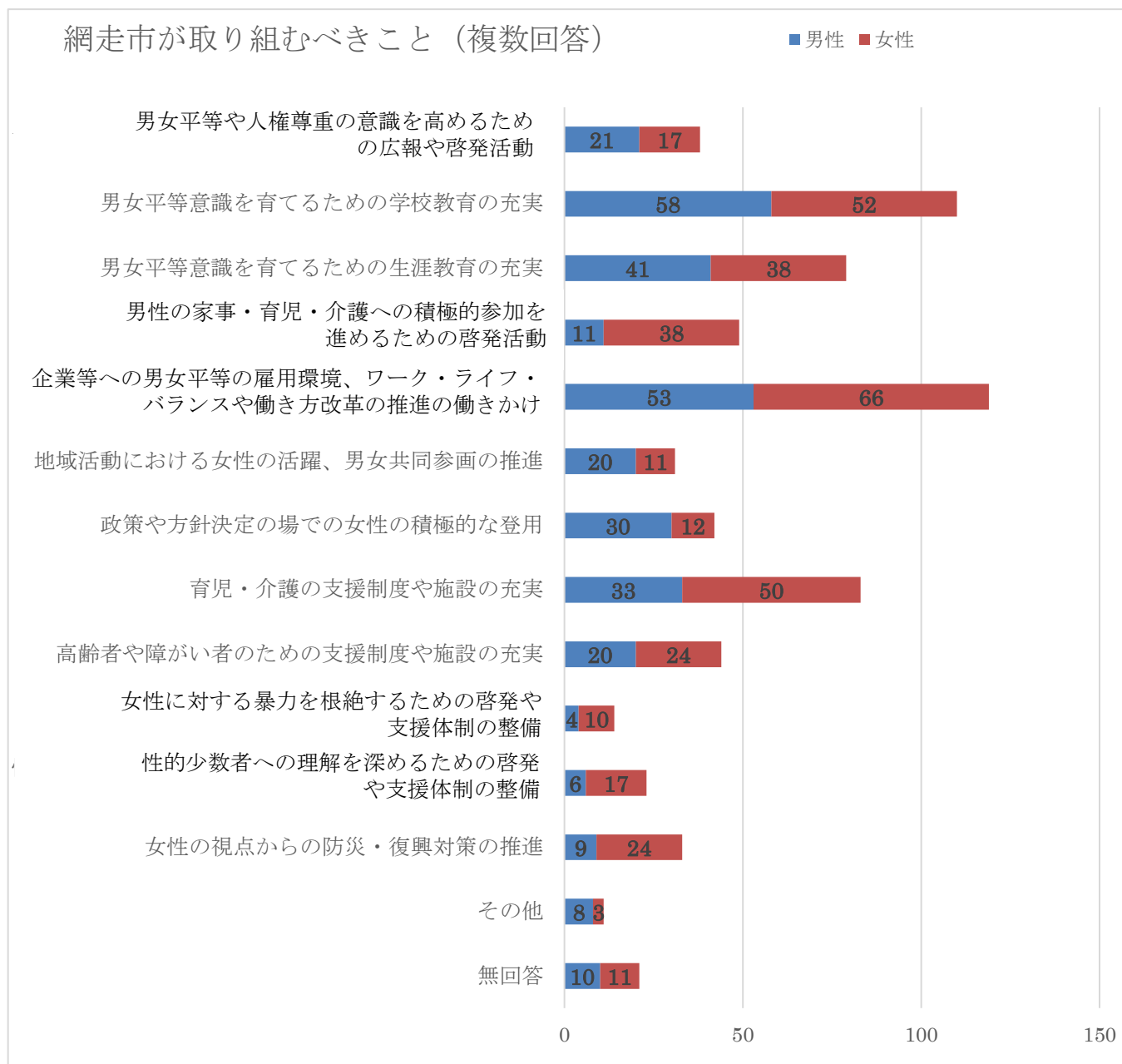
(1) 次の項目について男女共同参画は実現していると思うか【問32】

いずれの項目でも「あまり実現していない」「実現していない」の割合が高くなりました。



(2) 今後男女共同参画社会を実現するために網走市が取り組むべきだと思うことについて【問33】

「企業等への男女平等の雇用環境、ワーク・ライフ・バランスや働き方改革の推進の働きかけ」が最も多く、次に「男女平等意識を育てるための学校教育の充実」となりました。



その他（記述 11 件）

- ・仕組み作りに 20~30 代を積極的に取り入れる
- ・男女の分け隔てなくその人の個性を大切にする社会づくり。適材適所、平等ではなく対等にする
- ・そもそも性差は変えられないものなのだから、性差を見るのではなく、個人の能力や特性を鑑みての社会への参画を推進すべきだと考える
- ・ここに書いてあること全部

など

【参考：5年前】優先すべきと思う施策

